

# トルコにおける歩行者空間の構成要素について

鶴田 佳子・高木亜紀子

## A Study on Configuration of Pedestrian Space in Turkey

Yoshiko TSURUTA and Akiko TAKAGI

This paper analyzes the configuration of pedestrian space in Turkey through the study of spatial composition. Turkey has different climates according to regions and has developed under various cultural influences due to its geographical location connecting Asia, Europe and Africa. In this paper, we will try to gain an understanding of regional characteristics as well as the overall picture of Turkey through the analysis of urban space for pedestrians. The subject of research in this study is the pedestrian space which includes traditional business areas as well as the areas where open markets are held, and the space prepared exclusively for pedestrians by the administration. A field survey was conducted in August 2006 for the purpose of exploring the direction our pedestrian space study should go. Thirty-two districts in twelve cities were selected as the field survey spots for space configuration and their functions as well as their surrounding facilities were recorded. Information gathering in administrative agencies in various regions was also conducted. The study was organized according to the following four categories: space, facilities, appliances and their environment. It was further categorized into sixteen elements later on.

*Key words:* pedestrian space (歩行者空間), market place (市場), open market (露天市), field survey (フィールド調査), space configuration (空間形態)

### 1. はじめに

トルコは黒海、地中海、エーゲ海と三方を海に囲まれ、内陸は山脈、平野、河川や湖など起伏に富んだ地形を有し、肥沃な大地が広がる。豊かな自然条件に加えて、アジア、ヨーロッパ、アフリカの大陸を結ぶ立地から様々な文化の影響を受け発展してきた国である。多様な文化の影響が都市空間の様相にも現れているものと考え、本研究では歩行者空間を切り口に分析し、トルコの空間特性を抽出する。さらに、背景となっている地域性も併せて考察していく。研究対象とする歩行者空間は、都市中心部において人のための空間として機能し、多くの人々が利用可能な公共性を有する空間と定義する。また実際に都市内のどのような街路や街区が対応するのか、形態的な特徴も併せてみていく。

### 2. 研究手法

トルコの全体像を把握するために、地域及び規模の異なる都市を選定し、各都市では対象となる歩行者空間を定め、現地調査を実施する。多様な事例データの収集に努め、調査データに基づいて空間の形態分析を行う。研究対象とする地域の選定は治安面や気候面での調査条件も考慮し、都

市については文献等から得られた都市の規模や歴史、地図情報等をもとに選定する。各都市における調査対象エリアは地図や文献情報から予測し、現地で状況を確認後、決定する。調査では対象エリアの空間形態について図面及び写真による記録、同時に文献資料の収集及びヒアリングによる情報収集を行う。ヒアリングは歩行者空間を管理する行政機関及び空間を利用する市民や周辺施設の所有者等にも行い、あらゆる視点から情報を集める。空間の利用状況について、人々の活動状況、露天市の開催の有無、開催場所と内容、露店の形態と内容、イベント等について記録を行う。露天市は曜日と時間の制限があるものの計画的に歩行者空間が確保されている点で重要視している。調査機材はデジタルカメラ、距離測定機器、コンベックス、角度測定器、方位計等である。調査後は、収集データを作図、デジタル化し、分析の基礎データとする。空間構成をみるために事例毎に構成要素の内容を確認し、その配列や空間の利用状況等をもとに分析を進める。

### 3. 調査概要

2006年8月の調査地は、中部アナトリア地方、黒海地方、エーゲ海地方、マルマラ地方の中から、調査対象都市

を文献資料等の情報によって選定し、3週間で調査可能な行程を組む（調査行程及び行程図参照）。今回の調査で4地域から都市を選定したのは、今後トルコ全域の都市を調べ、地域性及びトルコの全体像を把握していくため、時間の可能な限り多くの地域を網羅して事例を収集し、方向性を検討するためである。大都市イスタンブールにおいては、都市の範囲が広いので中心部に位置する6区（エミノニュ区、ファーティヒ区、ベイオウル区、ベシクタシュ区、ウスキュダル区、カドゥキョイ区）の歩行者空間を、他の都市においては、その都市の中心部の歩行者空間を対象に調査を実施する。歩行者空間として、商業施設や露店が並ぶチャルシュ<sup>2</sup>エリア、露天市の開催場所、歩行者天国が予測され、事前情報として中心部にチャルシュを有するものや露天市の開催日がわかっているもの、車両規制されているエリアが明記されているものなどを調査地の選定基準とした。

### 1) 調査期間

2006年8月19日から9月9日までの計22日間

### 2) 調査メンバー

鶴田 佳子（昭和女子大学現代教養学科講師）

高木 亜紀子（昭和女子大学生活環境学科助手）

森戸 清美（昭和女子大学生活環境学科4年）

### 3) 調査行程（（）内は経由地を示す）及び行程図（図1, 2参照。図の番号はデータカードのcode-no.に対応する）

1. 8月19日（土）Tokyo → Seoul
2. 8月20日（日）Seoul → İstanbul
3. 8月21日（月）İstanbul
4. 8月22日（火）İstanbul →（バス）
5. 8月23日（水）→ Safranbolu
6. 8月24日（木）Safranbolu →（Ankara）→ Kayseri
7. 8月25日（金）Kayseri → Nevşehir → Uçhisar  
→ Nevşehir
8. 8月26日（土）Kappadokya
9. 8月27日（日）Nevşehir → Konya →（バス）

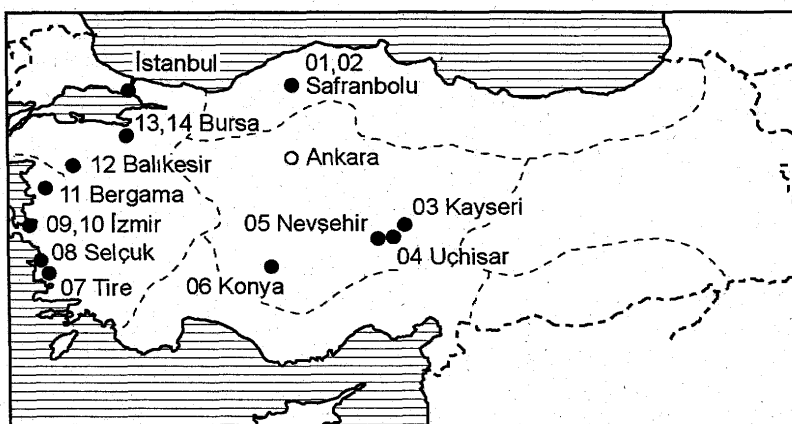


図1. 調査地位置図

10. 8月28日（月）→（Aydın）→ Selçuk → Tire → Selçuk
11. 8月29日（火）Selçuk → Ephesus → Tire → Selçuk  
→ İzmir
12. 8月30日（水）İzmir → Bergama
13. 8月31日（木）Bergama → Balıkesir → Bursa
14. 9月1日（金）Bursa → İstanbul
15. 9月2日（土）İstanbul
16. 9月3日（日）İstanbul
17. 9月4日（月）İstanbul
18. 9月5日（火）İstanbul
19. 9月6日（水）İstanbul
20. 9月7日（木）İstanbul
21. 9月8日（金）İstanbul →
22. 9月9日（土）→ Tokyo

### 4) データカード（pp. 65~80参照）

今回調査を実施した32事例について、事例ごとにデータカードを作成した。データカードには都市・地区名、調査日、調査対象エリア、構成要素（詳細は次項）、概要、空間構成を示すエリア図、代表写真2点を納めた。エリア図の凡例は図3に示す。

### 5) 調査関連用語

トルコではトルコ語を使用しているため、本研究に関連する用語を文中ではトルコ語のカタカナ表記とする。下記にトルコ語、カタカナ表記、意味の順で示す。

- bedesten ベデステン 高価な商品を扱う堅固な市場施設
- çarşı チャルシュ バザール, 市場, 商店街
- çayhane チャイハネ 喫茶店
- hamam ハマム 公衆浴場
- han ハン 隊商宿, 商館
- kervansaray キャラバンサライ 隊商宿
- külliye キュリエ ムスクを中心とした複合都市施設
- pazar パザル 露天市, 市場

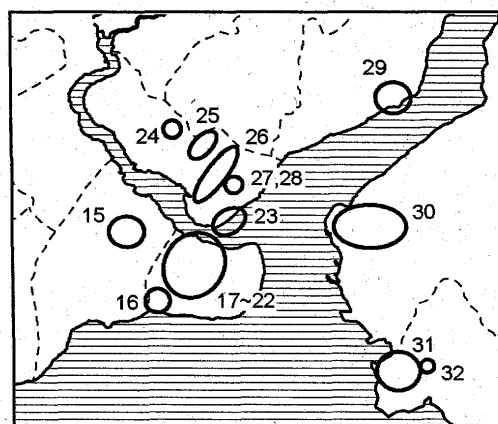
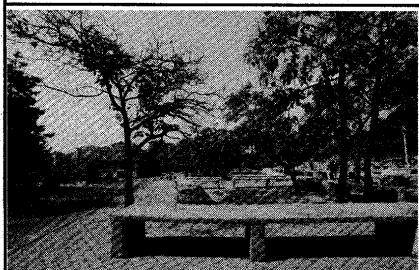
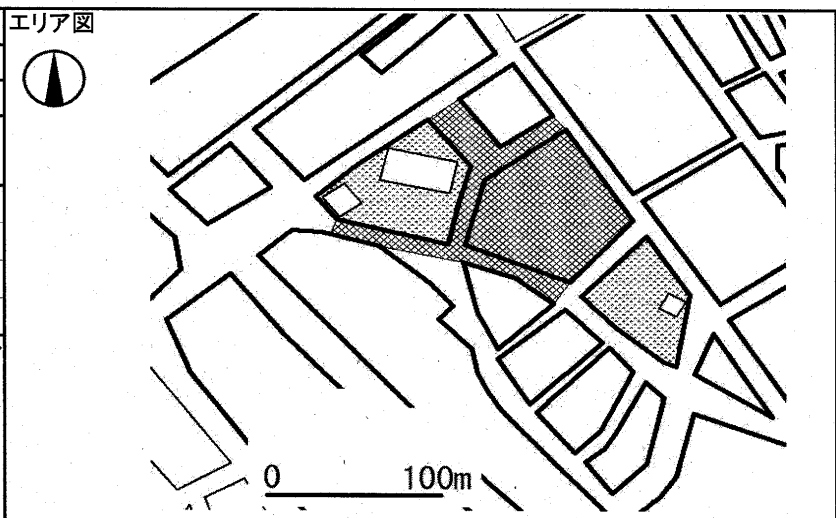
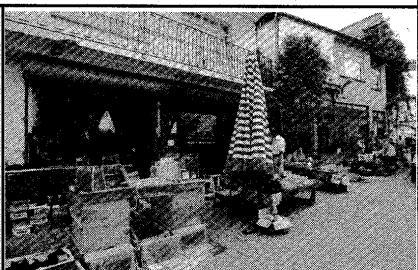


図2. イスタンブール拡大図

code-no.	TUR-06-01	
都市・地区	Safranbolu	
調査日	2006年8月23日(水)	
調査対象エリア	木曜市開催エリア	
構成要素	空間	広場、通り
	施設	市場
	装置	露店、水場
	環境	緑地、並木
<p>概要: サフランボルは人口3万人強の黒海沿岸地域の都市である。かつては、隊商が行き交い、商業で繁栄をしてきた都市であり、谷間の旧市街にはオスマン帝国時代の木造民家が並び、旧市街全体が世界遺産に指定されている。街は谷間の旧市街と高台にある新市街及び夏の居住地であったパーラル地区の3地区から大きく構成されている。定期市は市内4カ所で開催されており、一番規模の大きなものが、新市街に位置する木曜市である。常設のコンクリート製陳列台が並ぶ。10年前に開設されたもので、露店数は約300軒である。生鮮食料品以外に衣類等も販売され、広場と隣接する街路にも露店が並ぶ。</p>		
担当: 鶴田佳子		

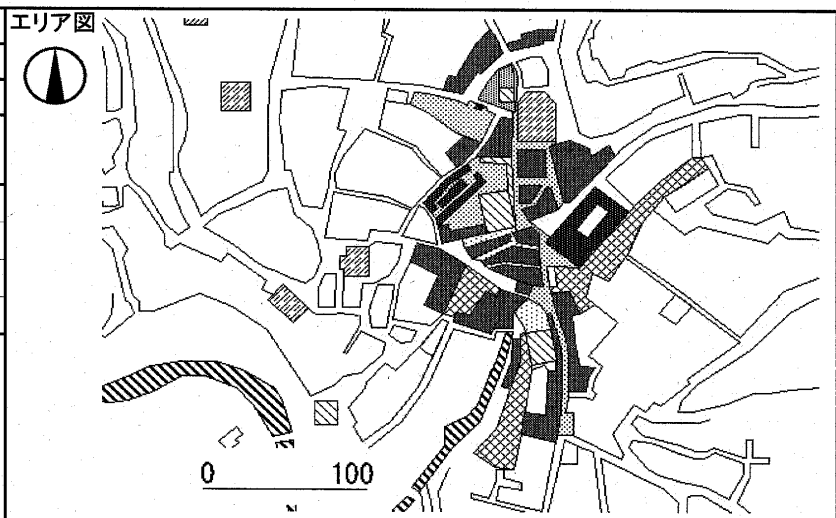


木曜市の開催広場。商品を陳列する台が区画に沿って並ぶ。

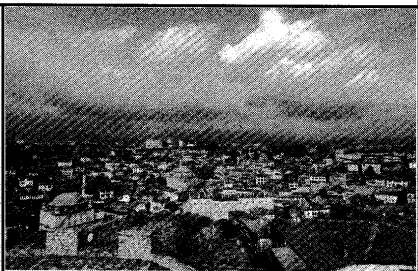


木曜市の広場から新市街中心部に抜け、路地に入った通りで小さな市が開かれていた。

code-no.	TUR-06-02	
都市・地区	Safranbolu	
調査日	2006年8月23日(水)	
調査対象エリア	旧市街のチャルシュエリア	
構成要素	空間	広場、通り
	施設	商業、宗教、公共、交通
	装置	露店、水場、カフェ
	環境	川
<p>概要: サフランボルの旧市街、谷底に位置するチャルシュである。かつて隊商が宿泊したキャラバンサライ(ジンジ・ハン)が東側に位置し、モスク、ハمامも中心部に並ぶ。通りには木造の商店や工房が並ぶ。キャラバンサライの裏の広場で、土曜市が開催される。この市は350年以上の歴史があり、冬場は近郊農民の露店30、衣類40、野菜40の計110軒であり、夏場は120~130軒の露店が並ぶ。また、南西部のモスク南側、川沿いの広場では動物市が同じく土曜日に開催される。近隣の村々から牛や羊が連れてこられ、取引される。露天商の数は22~25である。ほとんどの街路幅は狭く、車の進入が難しい。中心部の街路も土曜日は車両を規制して歩行者専用街路となる。</p>		
担当: 鶴田佳子		



土曜日の動物市開催広場。牛や羊が取引されている。



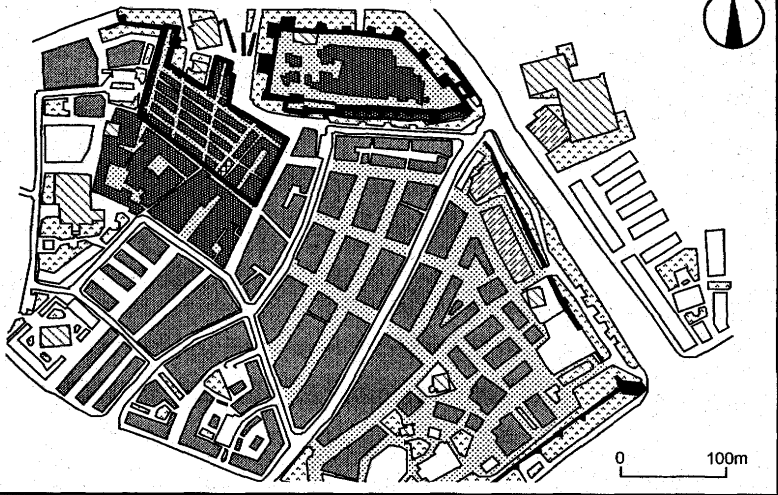
旧市街の中心部。中央の白く大きな建物がかつてのキャラバンサライである。

code-no.	TUR-06-03
都市・地区	Kayseri
調査日	2006年8月25日(金)
調査対象 エリア	旧市街のチャルシュエリア
構成要素	空間 広場、通り
	施設 商業、宗教、公共、交通
	装置 露店、カフェ、像、泉
	環境 緑地

概要:人口42万5千人。古くから交通の要所であり、今なお中部アナトリアの商業都市として知られている。絨毯の産地としても有名である。  
旧市街の中心は、カイセリ城、グランド・バザール、及びその周辺である。現在、カイセリ城内部には食料品や日用品の店が並ぶ。石造りの常設店舗が145店舗、小さな仮設店舗が197店舗入っている。グランド・バザールは屋根付きの店舗群で、隣接したハンやベデステンと一体となり、商業空間を形成している。建物は老朽化が進んでいるが、グランド・バザールとベデステンをあわせると750軒の店があり、多くの人に利用されている。カイセリ城の南側には新しく整備された商店街が広がる。一帯が歩行者空間となっており、広場も点在する。

担当:高木亜紀子

エリア図



カイセリ城内には食料品や日用品の店が並ぶ。



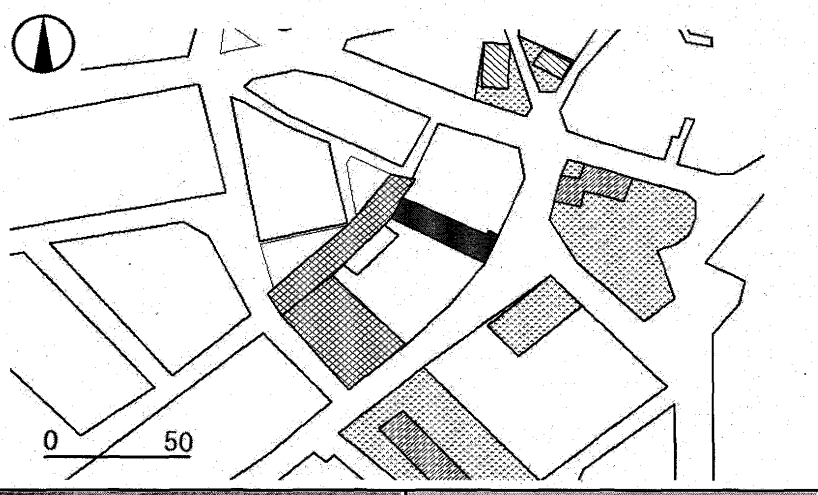
カイセリ城南側の商店街は、歩行者専用街路が整備されている。

code-no.	TUR-06-04
都市・地区	Uchisar
調査日	2006年8月25日(金)
調査対象 エリア	中心部の火曜市開催エリア
構成要素	空間 広場、通り
	施設 商業、宗教、公共
	装置 露店、カフェ、水場
	環境

概要:世界遺産となっているカッパドキアの中心部に位置するウチヒサルは町の高台に城壁がそびえたつ。城壁からはカッパドキア特有の奇岩が立ち並ぶ広大な土地を見下ろすことができる。小さな町ではあるが、岩山の城壁自体と城壁からの眺めにひかれ、観光客が訪れる。城壁の麓に広場と数軒の商店が並び、1街区下ったところに役所とモスク、他の町へのバスの発着所が位置する。露天市の立つ広場は、役所の南西、大規模な駐車場に隣接する。露天市は毎週火曜日に開催され、野菜、衣類、雑貨などが売られ、露店の数は20~40軒程度である。小さな町であるため、車両も少なく、歩行者専用街路としての規制はないが、城壁下の広場をはじめ、車を気にせずに歩くことができる空間が多い。

担当:鶴田佳子

エリア図



城壁から中心部を見下ろす。写真中央上が火曜市の開催広場。



火曜市の開催広場。石畳が敷き詰められ、中央に水場が設置されている。

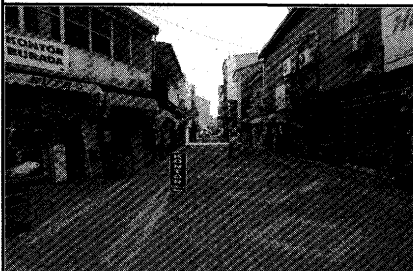
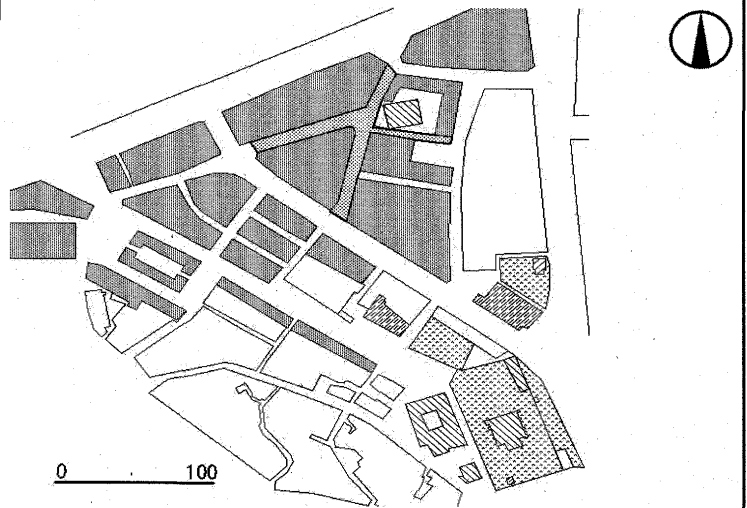


code-no.	TUR-06-05	
都市・地区	Nevşehir	
調査日	2006年8月26日(土)	
調査対象 エリア	中心部のチャルシュエリア	
構成要素	空間	通り
	施設	商業、宗教、公共、交通
	装置	泉
	環境	緑地

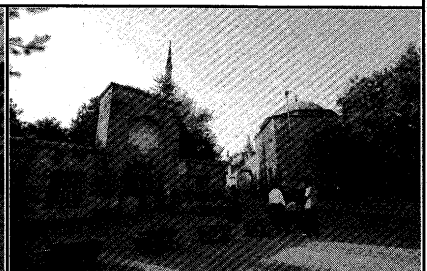
概要:ネブシエヒールはカッパドキアの観光拠点となる都市である。都市の中心部は大通りを挟んで、新市街に移行している。この旧市街には、市役所とモスク、商店街があり、商店街の一部に歩行者専用街路が整備されている。南側の丘の上には旧城砦があり、斜面には古い住宅が並ぶ。商店街はこの城砦の麓に位置する。旧市街の南東に並ぶ複合施設群ターマツト・イブラヒム・バシヤ・キュリエはモスク、ハمام、神学校が現存しており、静かな一画を形成している。モスクは1726年に、神学校は1727年に建設されたもので、神学校は現在、図書館として活用されている。モスク前の通りに面するホテルは店を閉じ、隣のハمامは営業しているものの、周辺は活気がみられない。

担当:鶴田佳子

エリア図



歩行者専用空間となっている北側の商店街部分。



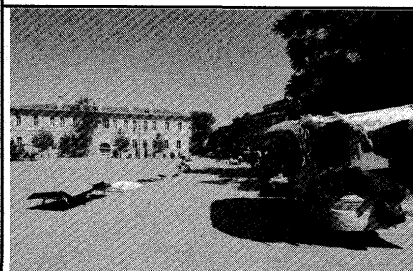
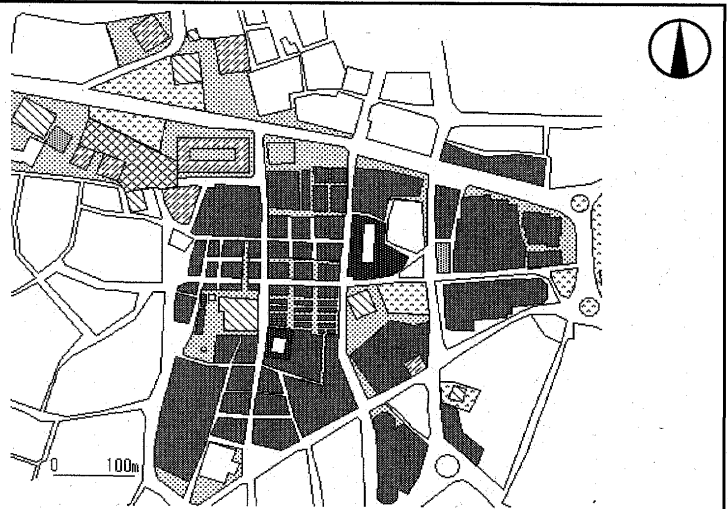
南側に位置するモスク(左)入口と図書館(右)。

code-no.	TUR-06-06	
都市・地区	Konya	
調査日	2006年8月27日(日)	
調査対象 エリア	中心部のチャルシュエリア	
構成要素	空間	広場、通り
	施設	商業、宗教、公共、交通
	装置	露店、カフェ、泉
	環境	緑地

概要:コンヤはセルジューク朝期に首都として繁栄した都市である。町のメインストリートであるメヴラーナ通りの南側に隣接してチャルシュエリアが位置する。通りに面する形で行政施設の並ぶヒュキュメット広場があり、日曜日には小さな露天市が開催される。広場の南東側に碁盤の目状の古い商店街が広がり、街路のほとんどが歩行者専用空間となっている。店舗の営業時間は平日8時から20時までであるが、休日営業の許可を得た店舗は日曜日でも10時から18時まで営業している。商店街は商品ごとにエリアが分かれており、コンヤの特産物である靴屋が100軒近くあり、次いで布地、貴金属店、それらの修理業も多い。商店街の南側に常設の大きな市場施設がある。

担当:森戸清美

エリア図



ヒュキュメット広場の様子。日曜日のみ露店が立つ。



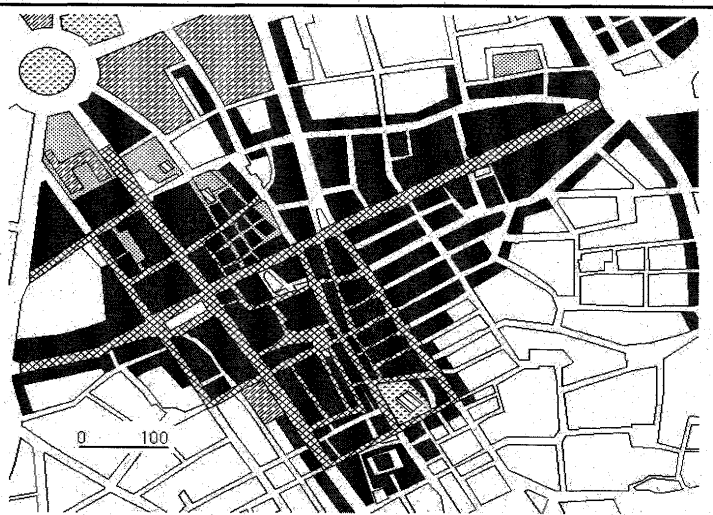
碁盤の目状に並ぶ商店街の一角。写真左は日曜営業の許可を得て店開きする靴屋。

code-no.	TUR-06-07
都市・地区	Tire
調査日	2006年8月28日(月),29日(火)
調査対象エリア	チャルシュと火曜市の開催エリア
構成要素	空間 広場、通り
	施設 商業、宗教、公共、交通
	装置 露店、カフェ、泉
	環境 緑地、並木

概要:ティレは人口44,000人の都市である。15世紀から続く、隊商都市としてかつてのハンも残るチャルシュが中心部に位置する。チャルシュの半分近くが歩行者専用街路であり、火曜日の定期市の際はメインストリートも車を通行止めにし、町全体が市場空間へと変貌する。火曜市の露店数は約1000軒。常設の商店も営業しており、周辺の村々からも生産物の販売に多くの人が訪れる。ベデステンとハンが複数残っているが、ほとんどが廃墟と化しており、一部を工房として使用する程度となっている。また、中心部のキュリイエの一角を形成する古いハマムの一部を店舗として再利用している。

担当:鶴田佳子

エリア図



靴屋が軒を連ねるチャルシュ内の街路。幅が狭く、歩行者専用空間となっている。



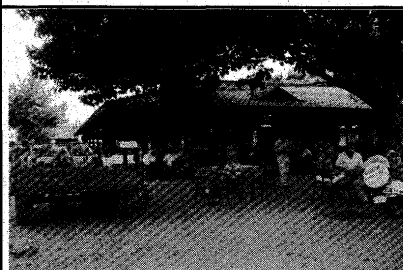
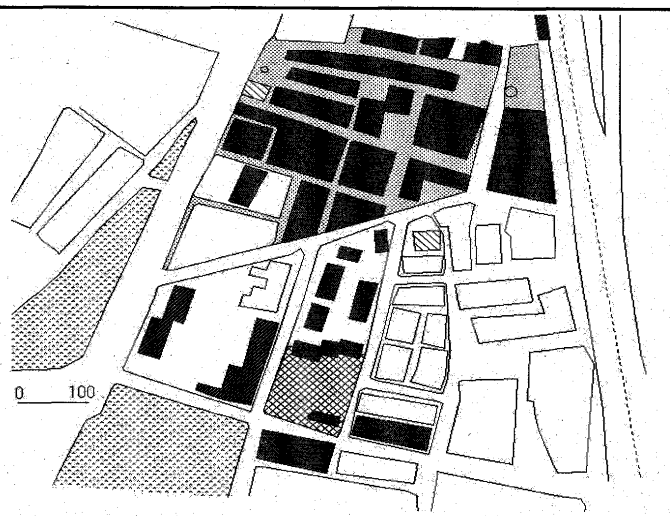
火曜市。メインストリートも火曜日のみ車が通行止めとなる。

code-no.	TUR-06-08
都市・地区	Selçuk
調査日	2006年8月28日(月)
調査対象エリア	中心部の歩行者エリア
構成要素	空間 広場、通り
	施設 商業、宗教、公共、交通
	装置 露店、カフェ、像、泉
	環境 緑地

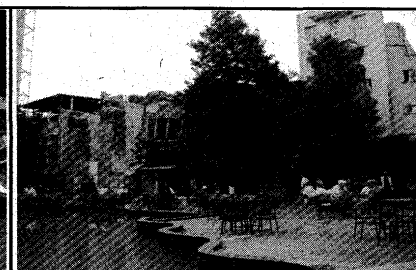
概要:セルチュクは人口約23,000人の小さな町である。世界遺産の古代都市エフェスの遺跡への観光拠点となっている。バスターミナルの北側には商店街があり、歩行者専用街路が整備されている。歩行者エリアの北東部には鉄道駅があり、駅近くはビザンチン様式の水道橋や記念碑を中心とした広場があり、オープンカフェも並ぶ空間となっている。バスターミナルの東側には市場広場があり、土曜日に露天市が開催される。広場の南側に野菜や果物を扱う店が数軒並び、毎日営業している。

担当:森戸清美

エリア図

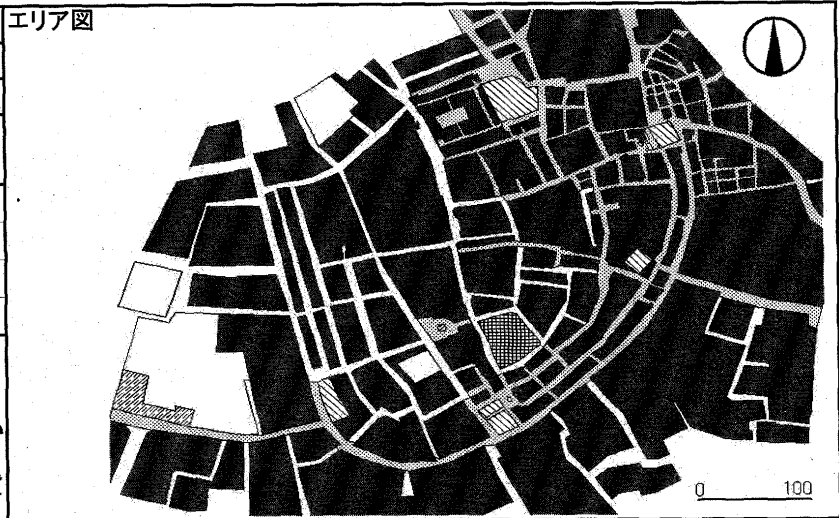


市場広場北側に隣接する、商業施設が並ぶエリア。



鉄道駅近くの広場。カフェやレストランのテーブルや椅子が並ぶ。

code-no.	TUR-06-09
都市・地区	Izmir
調査日	2006年8月30日(水)
調査対象 エリア	旧市街のチャルシュエリア
構成要素	空間 広場、通り
	施設 商業、宗教、公共
	装置 露店、カフェ、像、泉
	環境
<p>概要:イズミールはトルコで3番目に大きな都市であり、主要な港町である。旧市街のチャルシュエリアは細街路が入り組み、ほとんどが歩行者専用街路となっている。半円を描くアナファルタル通りがメインストリートであり、ここを中心に衣料品や雑貨を扱った規模の小さい商店が密集している。地元の買い物客や観光客で常に賑わいをみせる、商業エリアである。時間により露天商の営業が許可され、通りの中央に露店が並ぶエリアもある。</p>	
担当: 森戸清美	

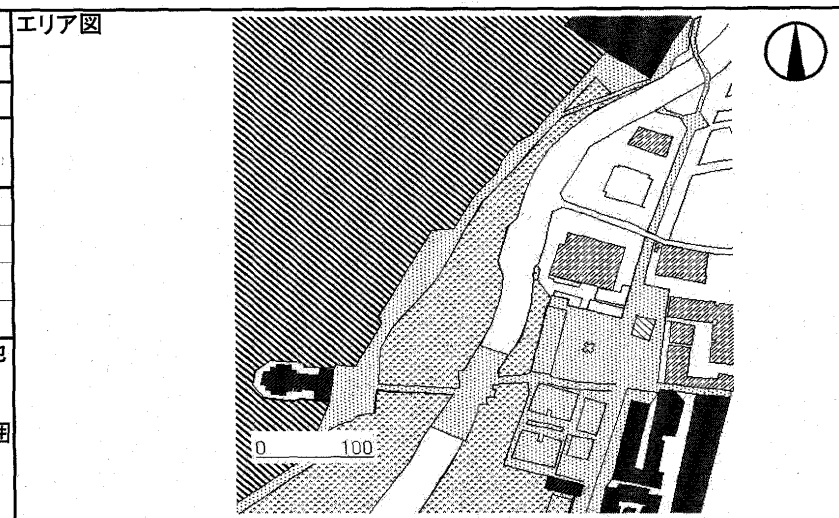


チャルシュエリアは店の商品が通りに張り出している。



雑貨店が集まるエリア。

code-no.	TUR-06-10
都市・地区	Izmir
調査日	2006年8月30日(水)
調査対象 エリア	海岸沿いの歩行者エリア
構成要素	空間 広場、通り
	施設 商業、宗教、公共、交通
	装置 露店、カフェ、像、泉
	環境 緑地、並木、海
<p>概要:旧市街のチャルシュエリアの細い路地を海側に抜けると、コナック広場から海岸まで歩行者空間が広がる。コナック広場の中央には時計台があり、周囲を行政施設が囲む。噴水や植栽、ベンチなどが整備されている。広場と船着場の間には大通りが縦断しているが、立体交差させ、海岸沿いの通りまで連続的に歩行者空間が形成されている。露天商や釣りを楽しむ人々の姿も見られた。</p>	
担当: 森戸清美	



行政施設の並ぶコナック広場。座ってくつろぐ人々の姿が見られる。



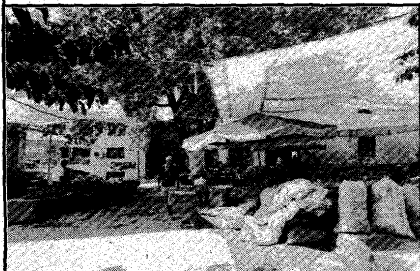
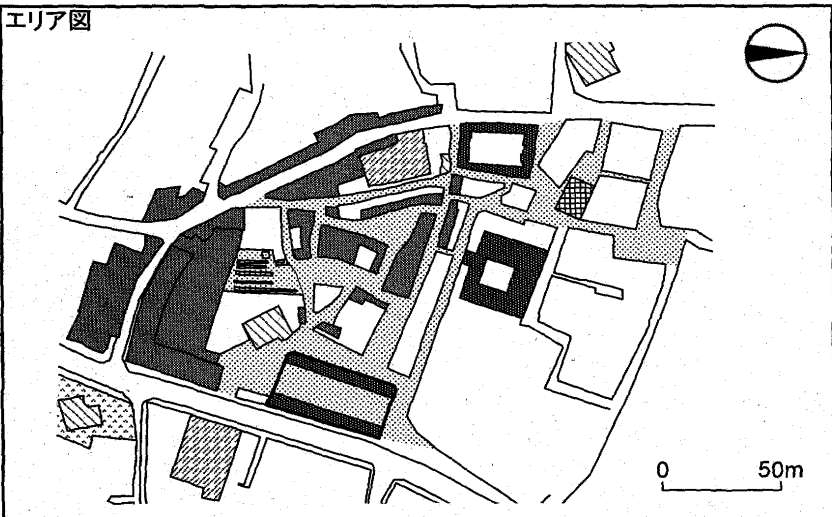
船着場周辺。芝生と海沿いの歩道が整備されている。

code-no.	TUR-06-11
都市・地区	Bergama
調査日	2006年8月31日(木)
調査対象 エリア	旧市街のチャルシュエリア
構成要素	空間 広場、通り
	施設 商業、市場、宗教、公共
	装置 露店、カフェ、泉
	環境

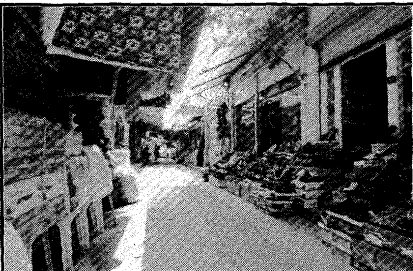
概要:ベルガマは人口約5万人、水利のよい平野の中程にある静かな農産物市場の町。かつてはベルガモンと呼ばれていた。ベルガモンは、中東の中でも有数の、富と権力を誇る小王国であった。そのときに建設された、アクロポリスとアスクレピオンが町の観光スポットとなっている。

調査対象地は旧市街の中心のチャルシュエリア。商店が軒を連ね、ハン、市場施設などが配置され、歩行者空間になっている。しかし、現在の町の中心はここから南へ1.5km程下ったエリアであり、旧市街のチャルシュエリアは人影がまばらで閑散としている。月曜日にチーズ市、金曜日と土曜日に野菜と衣類の市が開催される。

担当:高木亜紀子



金曜日に露天市が開催されるエリア。近隣の村の人も生産物を売りに来る。

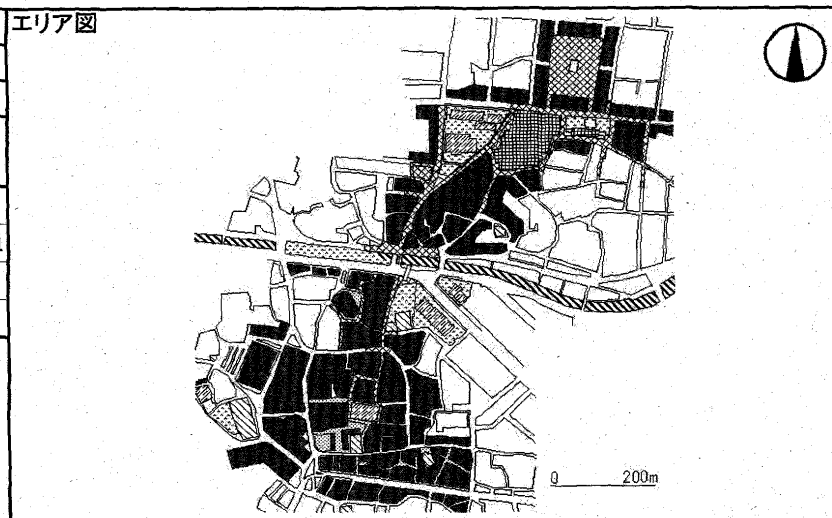


チャルシュエリア内の商店が連なる通り。

code-no.	TUR-06-12
都市・地区	Balikesir
調査日	2006年8月31日(木)
調査対象 エリア	旧市街のチャルシュエリアと火曜日開催エリア
構成要素	空間 広場、通り
	施設 商業、市場、宗教、公共、交通
	装置 橋、露店、カフェ、泉
	環境 川

概要:バルケシル都市部の人口は約20万人。旧市街には複数のモスクの他、19世紀建造の商業施設ベデステン、巨大な螺旋状のフロア構成のショッピングセンター、大空間の中に常設の店舗が並ぶ形式の生鮮食料品市場が配置されている。市内で立つ露天市は、月曜250、火曜1400、水曜180、木曜180、金曜250、土曜500、日曜450軒の露店により、毎日どこかで開催されている。火曜日では1400軒の露店が立ち並ぶ。魚市場、野菜・乾物市場と旧市街の商店街を中心に市が開催されている。1400の内訳は約500軒が衣類、500軒が野菜等の食品、残る400軒は周辺の村で生産されたものである。周辺の村からはトラックやトラクター、馬車で生産物を運んでくる。

担当:鶴田佳子



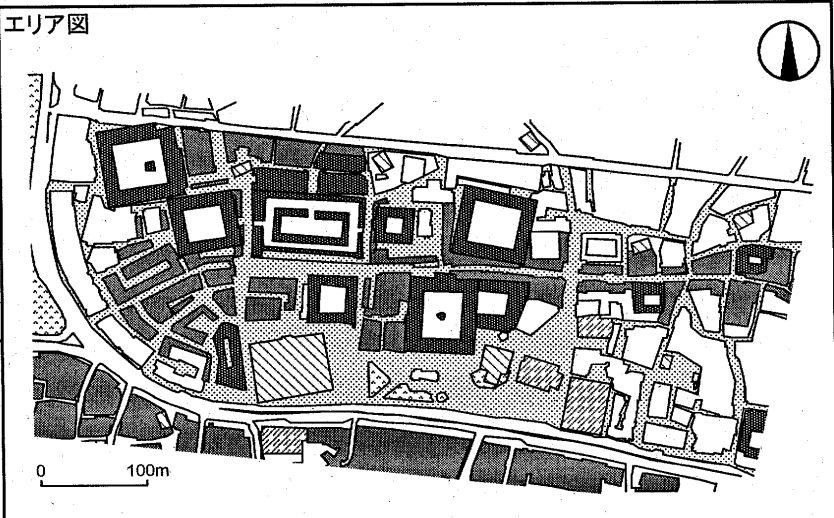
火曜は商店街の街路にも露店が並ぶ。



北側に位置する火曜市の広場。近郊の農家が販売するエリアとなっている。



code-no.	TUR-06-13
都市・地区	Bursa
調査日	2006年9月1日(金)
調査対象エリア	中心部のチャルシュエリア
構成要素	空間 広場、通り
	施設 商業、宗教、公共、交通
	装置 階段、露店、カフェ、泉
	環境 緑地
<p>概要:人口約100万人、ウル山の北側斜面に位置する自然豊かな町。トルコ語で緑のブルサという意味のイエシル・ブルサとも呼ばれ、親しまれている。</p> <p>オスマン帝国最古の首都であった。古くから商業面でも栄えていたブルサは、オスマン朝の時代に絹織物産業が盛んになり、現在でもその産地として有名である。また、ローマ時代からの温泉地としても知られている。</p> <p>調査対象は、モスク、ベデステン、ハン、役所、商業施設などの集まるチャルシュエリアで、10時から19時は車を遮断し、歩行者専用空間となる。他の都市のチャルシュと比べても、ハンなどの歴史的商業施設が多く、チャルシュの範囲も広大である。</p>	
担当: 高木亜紀子	

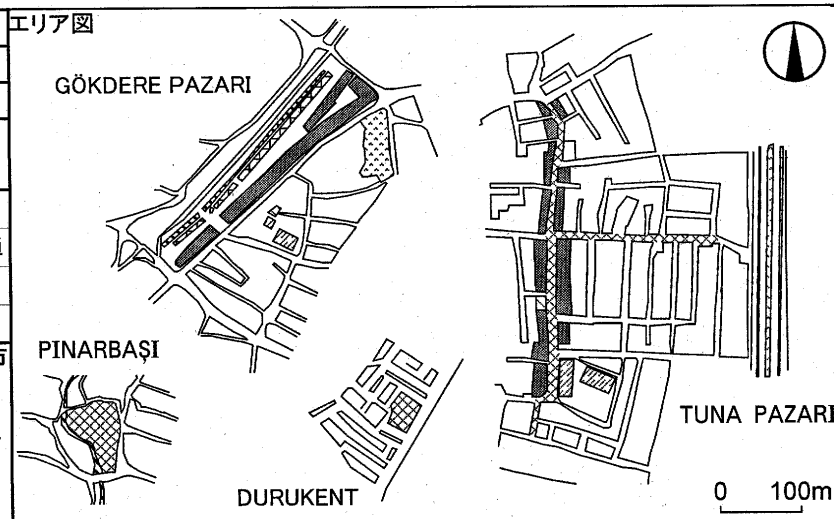


商業施設が軒を連ね、多くの観光客や地元の人で賑わう。



チャルシュエリアの中心を東西に抜ける通り。アーケードで覆われている。

code-no.	TUR-06-14
都市・地区	Bursa
調査日	2006年9月1日(金)
調査対象エリア	金曜日開催エリア
構成要素	空間 広場、通り
	施設 商業、市場、宗教、公共、交通
	装置 露店、泉
	環境 川
<p>概要:ブルサ市内では、毎日数多くの露天市が開催されている。</p> <p><b>GÖKDERE PAZARI</b> 川沿いに建つ、屋根と柱のみの半屋外市場施設で市が開催される。月曜日、金曜日は野菜、火曜日は衣類の市が立つ。</p> <p><b>TUNA PAZARI</b> 住宅街で開催される市。通常は車が通るが、市の開催時は歩行者専用空間となる。</p> <p><b>DURUKENT</b> 通常は駐車場として利用されている。都市計画が進んでいる地域であり、付近には大型スーパーマーケットもあるため、客はあまり多くない。</p> <p><b>PINARBAŞI</b> 立体駐車場で開催される。</p>	
担当: 高木亜紀子	



GÖKDERE PAZARI。市場施設は2005年に完成した。

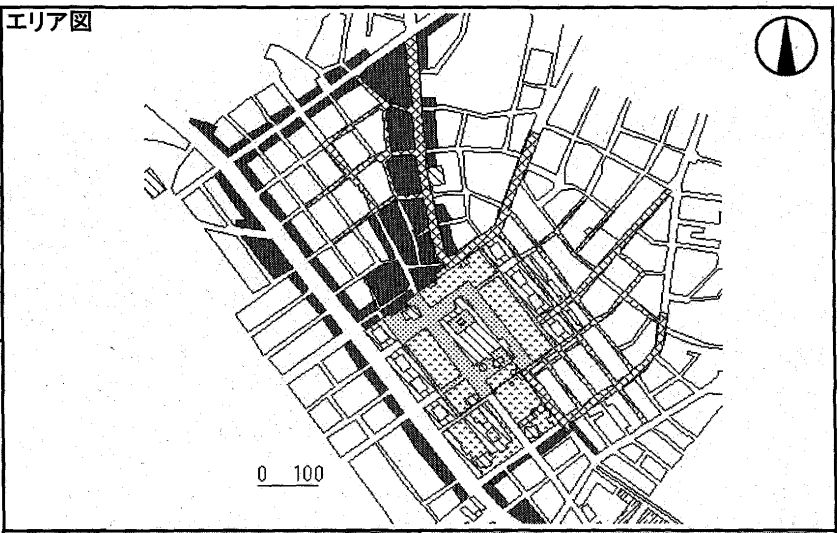


PINARBAŞIは立体駐車場で開催される。

code-no.	TUR-06-15
都市・地区	Istanbul_Fatih
調査日	2006年9月6日(水)
調査対象 エリア	ファーティヒ水曜市開催エリア
構成要素	空間 通り
	施設 商業、宗教
	装置 露店、泉
	環境 緑地

概要:ファーティヒ・モスクとその周辺に複合施設としてつくられているキュリエと商店街及び住宅街の街路に水曜市が立つ。イスタンブール市内には数多くの露天市が立つが、中でも一番長い歴史を有する露天市である。通りごとに衣類、食料品、日用雑貨と商品が分かれている。ファーティヒ・モスクの境内での売買は禁止されており、広い境内は買い物に疲れた人々の休息の場として活用されている。水曜市では、刈り取られた羊の毛もトラックで運びこまれ、季節限定の商品も並ぶ。

担当:鶴田佳子



ファーティヒ・モスクの境内

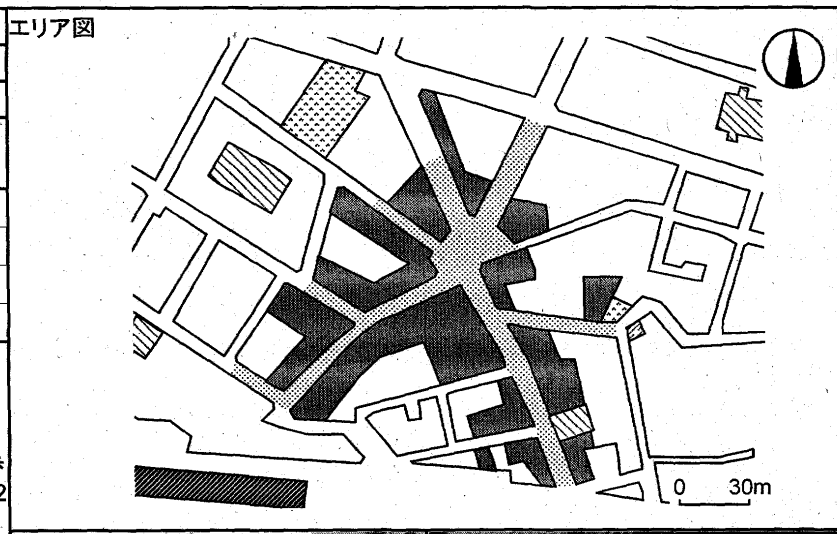


北側の大通りも車の進入を制限し、露店が並ぶ。奥の塔はファーティヒ・モスクの尖塔。

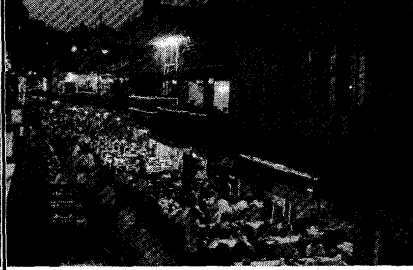
code-no.	TUR-06-16
都市・地区	Istanbul_Eminönü
調査日	2006年9月4日(月)
調査対象 エリア	クムカプ魚レストラン街
構成要素	空間 広場、通り
	施設 商業、宗教、交通
	装置 露店、カフェ
	環境

概要:グランド・バザールから南へ約800m程下った場所にある、魚料理のレストラン街。かつてはアルメニア人、ギリシア人の漁村であった。1980年代から魚料理のレストランが増え、歩行者空間に整備された1993年が最盛期で42店舗程あった。その後景気が悪くなり、現在は35店舗。店の営業時間は朝10時～深夜2時で、観光局の許可を得ている店は深夜4時まで営業している。昼の12時から歩行者専用空間となるため、搬入車両が入れるのはそれまでとなる。露天商は18時まで営業が許可されている。

担当:高木亜紀子



広場を中心に放射状に魚料理レストランの連なる歩行者空間が広がる。

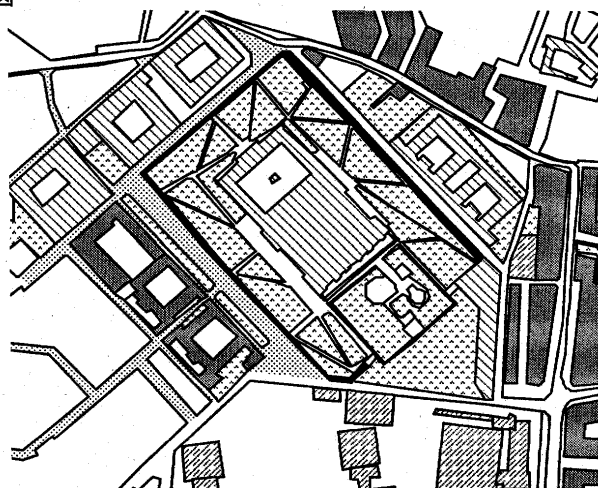


昼夜を問わずたくさんの客で賑わう。



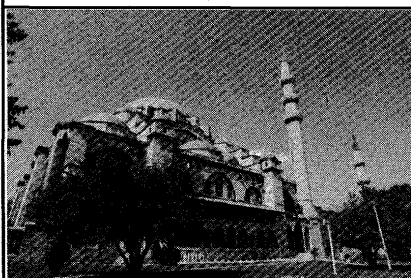
code-no.	TUR-06-17
都市・地区	Istanbul_Eminönü
調査日	2006年9月3日(日)
調査対象 エリア	シュレイマニエ・キュリエ周辺 の歩行者エリア
構成要素	空間 広場、通り
	施設 商業、宗教、公共
	装置 露店、カフェ、泉
	環境 緑地

エリア図

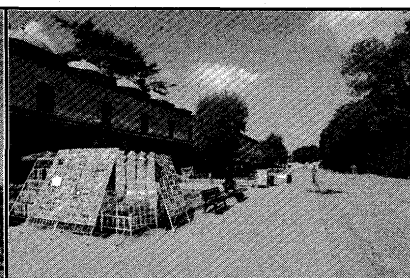


0 50m

概要: シュレイマニエ・キュリエはオスマン帝国が最も繁栄した1550~1557年にかけて、シュレイマン大帝によって建てられた。イスタンブルに建設された4番目のキュリエである。モスク、神学校、病院、ハン、ハمام、市場などが配置された。金角湾を見下ろす高台に建ち、モスクの裏側からはイスタンブルの町並みを見下ろせる。敷地内は歩行者空間となっている。



キュリエの中心、シュレイマニエ・モスク。

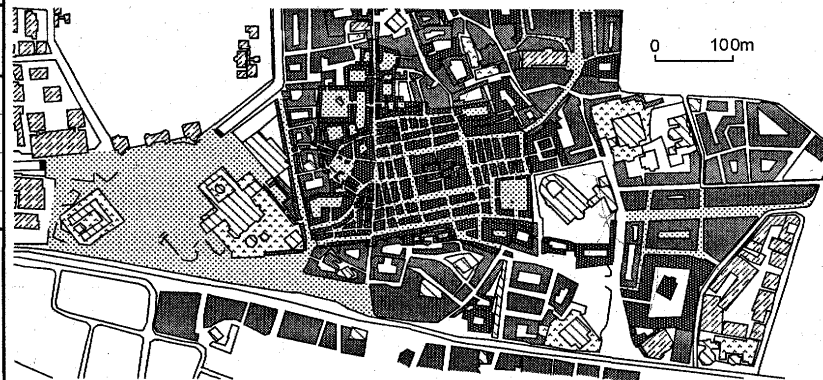


敷地内は歩行者空間となっている。

担当: 高木亜紀子

code-no.	TUR-06-18
都市・地区	Istanbul_Eminönü
調査日	2006年9月4日(月)
調査対象 エリア	グランド・バザール周辺 エリア
構成要素	空間 広場、通り
	施設 商業、宗教、公共、交通
	装置 露店、カフェ、像、泉
	環境 緑地

エリア図



0 100m

概要: イスタンブルの旧市街の中心に位置する。屋根付き市場という意味のカパル・チャルシュとも呼ばれる。15世紀半ばに建設された、2つのベデステン(エスキ・ベデステン、サンダル・ベデステン)が中心となっている。その2つのベデステンを中心に店は増えつづけ、16世紀後半から17世紀にかけて、無数の店舗、ハン、ベデステンが屋根で覆われたアーチ形の通路で結び合わされ、一大施設へと発展した。現在、45000㎡、3600店舗の規模を誇る。営業時間は夏は8~19時半、冬は8時半~19時で、22カ所の門は営業時間以外は施錠される。観光客だけではなく、イスタンブル市民も多数訪れる。グランド・バザールの西側にはベヤズィット広場がある。路面電車の駅もあり、グランド・バザールとその周辺、及びイスタンブル大学への交通拠点となっている。



金製品の店が並ぶエリア。トルコの金の相場はグランド・バザールの中心で決まる。



ベヤズィット広場に面するグランド・バザールの門。営業時間以外は施錠される。

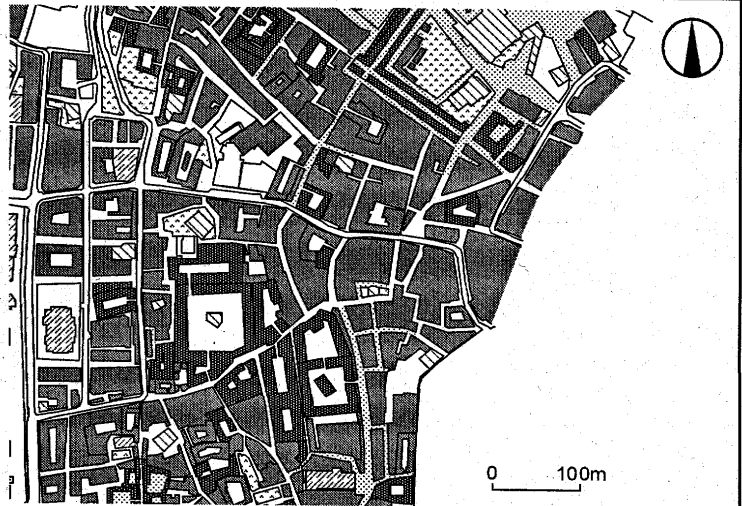
担当: 高木亜紀子

code-no.	TUR-06-19
都市・地区	Istanbul_Eminönü
調査日	2006年9月2日(土)
調査対象 エリア	エミノニュ問屋街
構成要素	空間 通り
	施設 商業、宗教、公共
	装置 露店、カフェ、泉
	環境 緑地

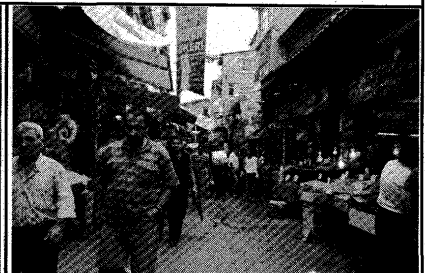
概要: グランド・バザールとエジプト市場の間は、問屋街が広がる、イスタンブルの経済の中心をなしてきたエリアである。多数のハンが散在し、現在も商店、事務所、作業場、倉庫として利用されている。修復しながら昔の姿をとどめているもの、新しく建て替えているものなど、様々である。  
入り組んだ商業施設の中を、観光客や地元の人々が行き交う、活気あるエリアである。

担当: 高木亜紀子

エリア図



グランド・バザールとエジプト市場の間には問屋街が形成されている。



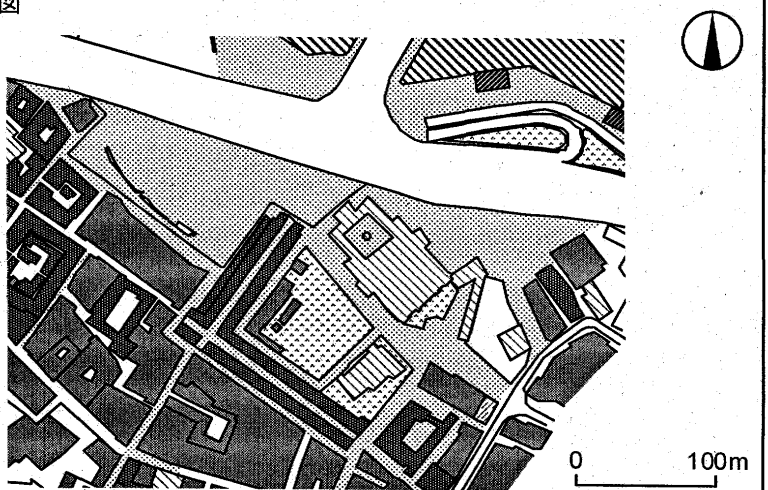
エジプト市場の近くには香辛料を売る店が多数見られる。

code-no.	TUR-06-20
都市・地区	Istanbul_Eminönü
調査日	2006年9月2日(土)
調査対象 エリア	エジプト市場周辺
構成要素	空間 広場、通り
	施設 商業、宗教
	装置 階段、露店、カフェ、泉
	環境 緑地、海

概要: エジプト市場は1597~1664年に建設された。店の賃貸料はイエニ・モスクの維持と慈善事業のために使われていた。エジプトから納められた貢ぎ物により設置されていたため、エジプト市場と呼ばれている。かつては90軒近く香辛料の店が並んでいたため、スパイス・バザールとも呼ばれる。現在は土産物屋等が増えているが、市場の周辺にも香辛料、食品、日用品を売る店が並び、中庭には小鳥や植木を扱う店が並ぶ。エジプト市場とモスクの間には広場があり、歩行者空間となっている。常に市場やモスクを訪れる人で賑わっている。

担当: 高木亜紀子

エリア図



モスクとエジプト市場の前に広がる歩行者空間。



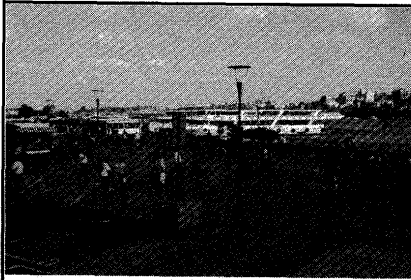
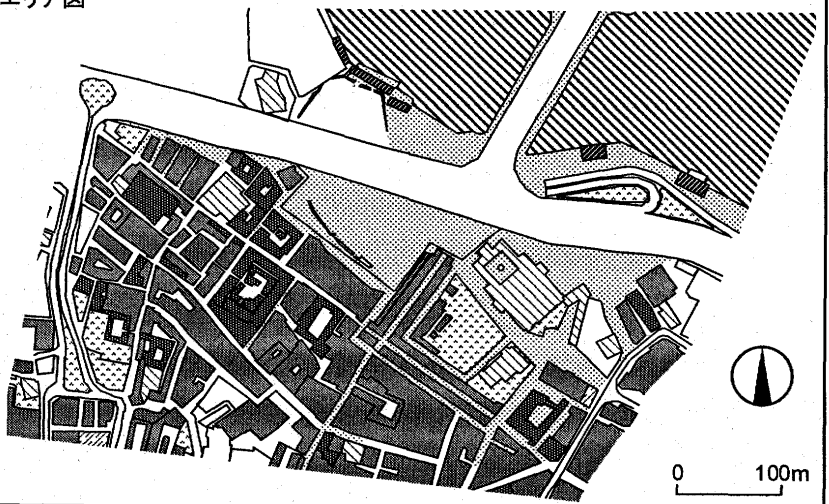
エジプト市場内部。香辛料や土産物の店が軒を連ねる。

code-no.	TUR-06-21
都市・地区	Istanbul_Eminönü
調査日	2006年9月2日(土)
調査対象 エリア	エミノニュ港前広場 エリア
構成要素	空間 広場、通り
	施設 商業、宗教、交通
	装置 階段、橋、露店
	環境 海

概要:エミノニュの港は、ボスポラス周航船、アジア岸のウスキュダル、カドゥキョイへの定期船、金角湾の奥への船の発着所となっている。  
港前広場は歩行者空間となっており、船を利用する人などで賑わっている。かつては露天商の姿が見られたが、現在は役所により露天商の営業は禁止されている。

担当:高木亜紀子

エリア図



港は多方面への船の発着所となっている。



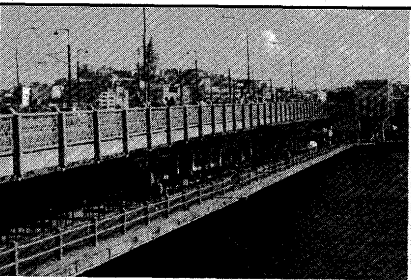
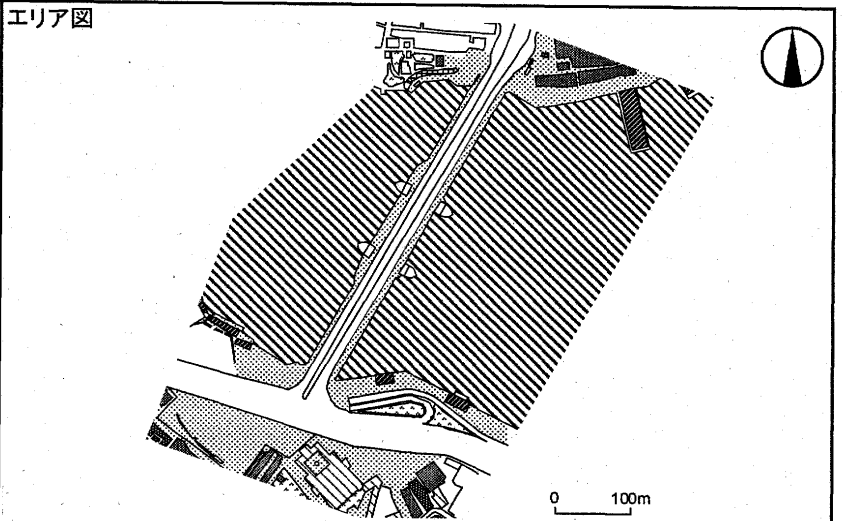
ガラタ橋や港前広場では、釣りをする人々が多数見られる。

code-no.	TUR-06-22
都市・地区	Istanbul_Eminönü
調査日	2006年9月2日(土)
調査対象 エリア	ガラタ橋
構成要素	空間 通り
	施設 商業、交通
	装置 階段、橋、露店、カフェ
	環境 海

概要:ガラタ地区とエミノニュ地区を結ぶ、金角湾にかかる橋。  
1845年に木製の橋が完成。1902年には二階建ての跳ね橋が開通した。下層階には魚料理レストランがあり、地元の人や観光客に親しまれていたが、1992年に火災で焼失し、現在の橋がかけられた。2002年に橋の下層階にカフェやレストランがオープンした。上の階は、歩行者、車の他、路面電車も中央を走っている。歩道の欄干から糸を垂らし、釣りを楽しむ人々で賑わう。

担当:高木亜紀子

エリア図



二重構造の橋。ガラタ地区(写真奥)とエミノニュ地区を結ぶ。



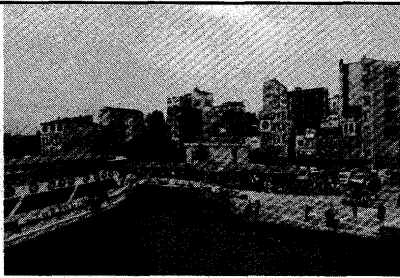
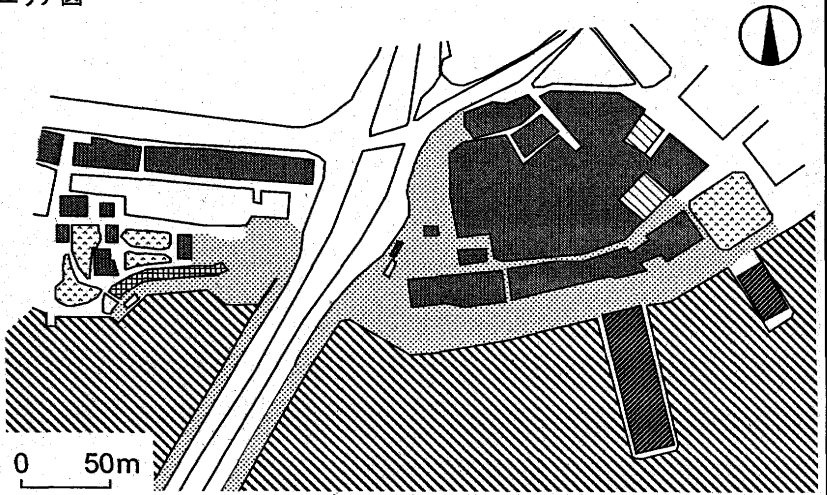
下層階にはカフェやレストランが軒を連ねている。

code-no.	TUR-06-23
都市・地区	Istanbul_Beyoglu
調査日	2006年9月5日(火)
調査対象 エリア	カラキョイ港前の歩行者エリア
構成要素	空間 広場、通り
	施設 商業、市場、宗教、交通
	装置 階段、橋、露店、カフェ
	環境 緑地、海

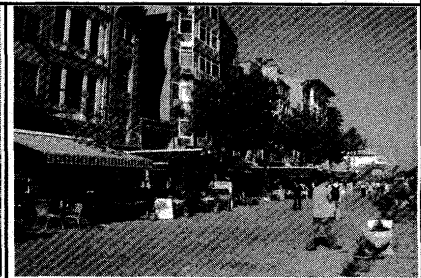
概要:カラキョイは金角湾に面する新市街の玄関口である。金角湾を挟んで南側には旧市街が対峙し、金角湾をまたぐガラタ橋を渡るとエジプト市場のあるエミノニュである。カラキョイの歩行者空間はガラタ橋の東側と西側の2ブロックに広がる。東側には船着場があり、アジア側やボスポラス海峡沿いの町を結ぶ連絡船の発着場となっている。船着場周辺には海を眺める形で魚料理のレストランが軒を連ねる。レストランの裏通りに数軒の露店が並び、通りの東側にモスクと小広場がある。ガラタ橋の西側エリアには魚市場があり、市場の奥の公園では、魚レストランのテーブルが木陰に並んでいる。

担当:森戸清美

エリア図



西側エリアの魚市場周辺。



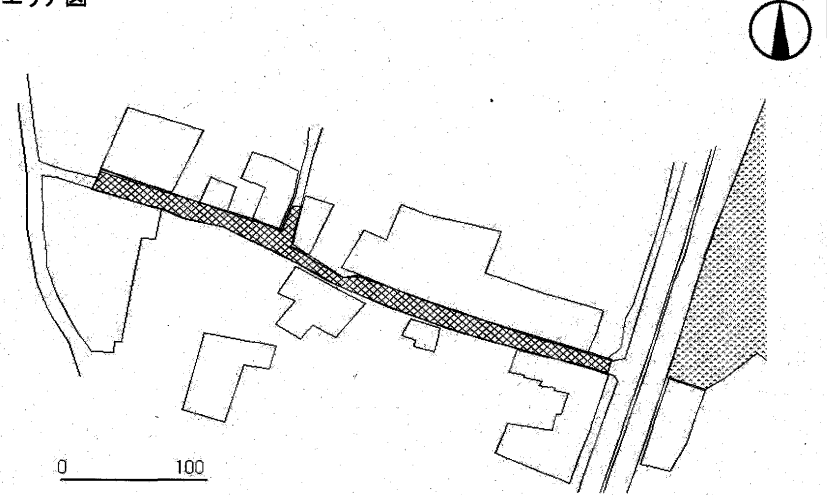
東側、船着場前の歩行者空間。魚料理のレストランが並ぶ。

code-no.	TUR-06-24
都市・地区	Istanbul_Beyoglu
調査日	2006年9月3日(日)
調査対象 エリア	カスタモヌ市開催エリア
構成要素	空間 通り
	施設
	装置 露店
	環境

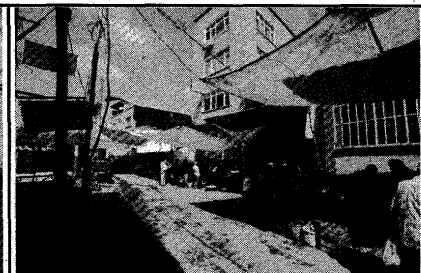
概要:イステイクル通りから西に下った、工場や住宅街が広がるエリアに位置する日曜市である。黒海沿岸のカスタモヌ県の県都カスタモヌから直接運搬された、新鮮な無農薬野菜や手作りジャムなどが売られている。15店舗程度の小さな露天市であるが、イスタンブルに暮らすカスタモヌ出身者はもちろん、出身者以外の客も多く訪れている。露天商の話によると、以前もこの通りで開催されていたが、一時期、近くの駐車場へ会場を移動し、2006年6月に再びこの通りへと戻ってきたとのことである。

担当:森戸清美

エリア図



取れたての新鮮な野菜が並ぶ店舗。朝4時頃から準備が始まる。



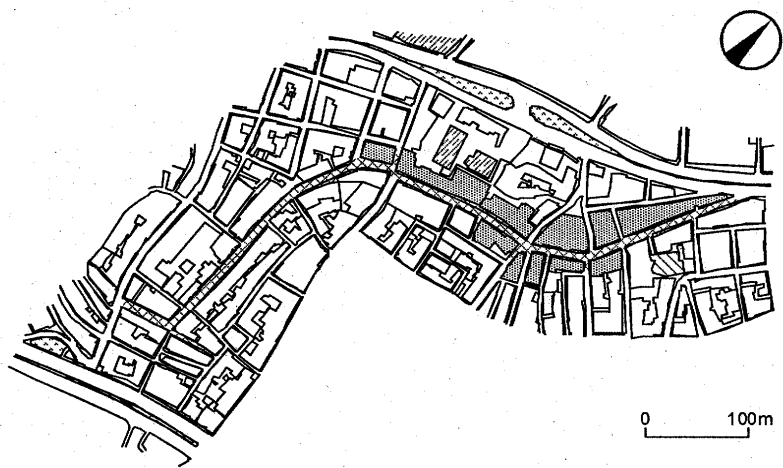
周辺施設は工場や住宅のみである。

code-no.	TUR-06-25
都市・地区	Istanbul_Beyoglu
調査日	2006年9月3日(日)
調査対象 エリア	イエニ・シェヒール日曜市開催 エリア
構成要素	空間 通り
	施設 商業、宗教、公共
	装置 露店
	環境

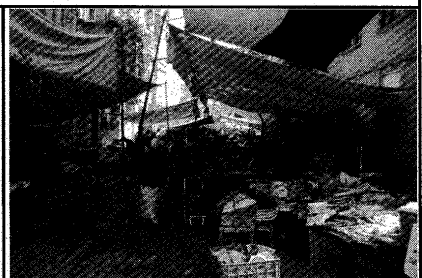
概要: タクシム広場から西へ下った谷間に広がる日曜市。198の露天商が店を広げる。1軒の露天商が複数の陳列台を使用するため、陳列台の総数は約950。ベイオウル区の管轄の下、開催されている7露天市のうち、露天商の数ではカスムパシヤ金曜市について2番目に多い。  
開催場所に住宅街と商店が数軒並ぶ通りを利用し、野菜、果物、生活雑貨などの露天商が陳列台とテントを張って店開きする形をとっている。  
周辺はジプシーが暮らす住宅が多く、市場を囲む建物は洗濯物が干してあるなど生活感が溢れているが、治安が悪いため、露天市でもスリが多いようである。

担当: 森戸清美

エリア図



チーズを売る店。上部はテントで覆われている。



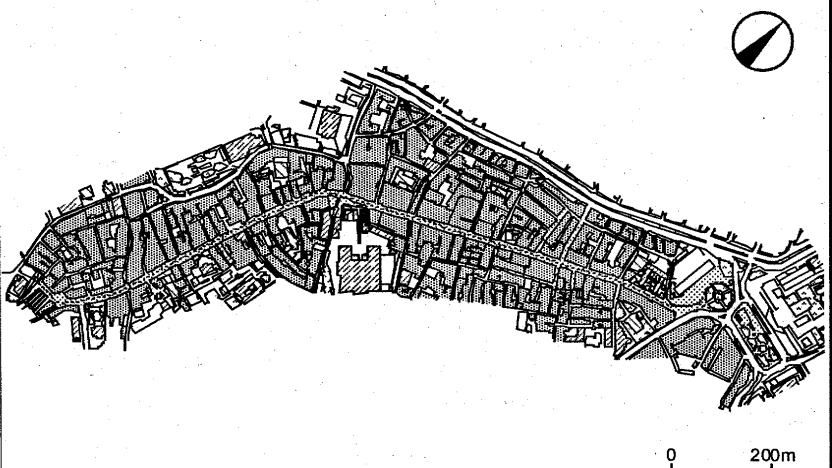
雑貨店が集まるエリア。

code-no.	TUR-06-26
都市・地区	Istanbul_Beyoglu
調査日	2006年9月2日(土)
調査対象 エリア	イスティクル通り
構成要素	空間 広場、通り
	施設 商業、宗教、公共、交通
	装置 露店、カフェ、像
	環境 緑地

概要: イスティクル通りは、新市街の中心的なエリアで、高台にあるタクシム広場からテュネル駅へと南に下っている。通りの中央には路面電車が通るが、それ以外の車両は遮断された歩行者専用街路である。様々な商業施設や領事館などが建ち並び、夜遅くまで老若男女問わず多くの人で賑わっている。  
また、横に延びる脇道、さらに奥に延びる裏道に至るまでカフェやレストランが並び、その一部は歩行者専用街路となっている。ベイオウル区役所は、通りに面する建物のファサードや露店の整備、老朽化した建物の修復など、様々な対策に取り組んでいる。

担当: 森戸清美

エリア図



ガラタサライ広場。イスティクル通りの中間地点に位置するガラタサライ高校の前に広がる。

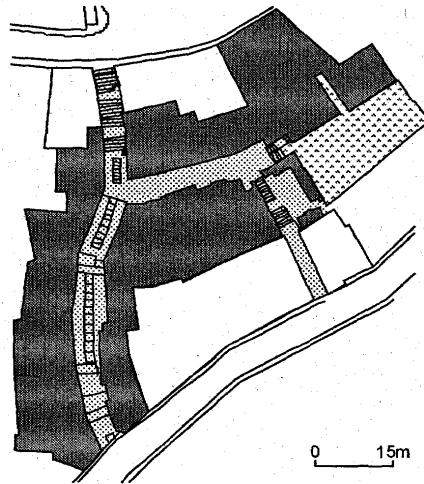


タクシム広場。中央には像があり、交通施設やホテルが集まる。



code-no.	TUR-06-27	
都市・地区	Istanbul_Beyoglu	
調査日	2006年9月5日(火)	
調査対象 エリア	フランス通り	
構成要素	空間	広場、通り
	施設	商業
	装置	階段、カフェ、像、泉
	環境	緑地
<p>概要: フランス通りは、イスティクル通り面に面するガラタサライ高校の裏路地を入ったところに位置する。ここはかつてフランス人が住んでいたエリアであった。老朽化した住宅街を再開発し、レストランやカフェへ造り替え、2004年に完成した。</p> <p>フランス通りは中央に階段のある通りとその中間から延びるL字型の通りからなる。通りの両側には店舗のテーブルと椅子が並び、夜遅くまで賑わいをみせる。</p>		
担当: 森戸清美		

エリア図



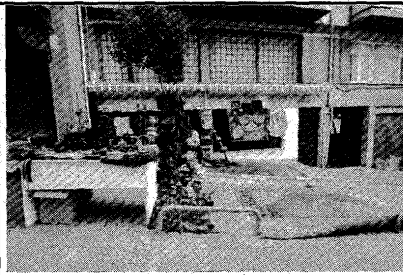
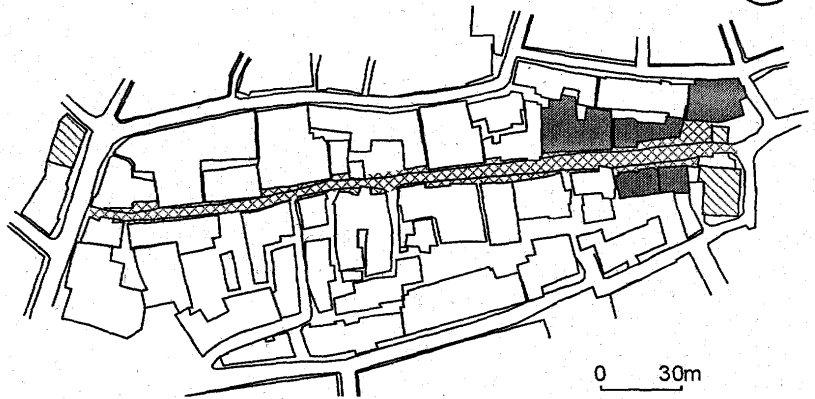
階段を利用しながらカフェやレストランが並ぶ。



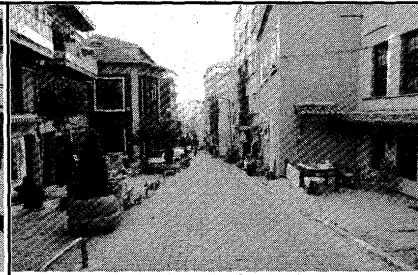
東西方向へ延びる、唯一平坦な通り。

code-no.	TUR-06-28	
都市・地区	Istanbul_Beyoglu	
調査日	2006年9月3日(日)	
調査対象 エリア	チュクルジュマ 蚤の市開催エリア	
構成要素	空間	通り
	施設	商業、宗教
	装置	露店、泉
	環境	
<p>概要: イスティクル通りの南側エリアに位置し、外国人に人気の高級住宅街に程近い。チュクルジュマは、住宅街にアンティーク店が点々と並ぶ一画である。通りの北側にはMuhyiddin Molla Fenari Camiiがある。アンティーク店の店主たちを中心に、町おこしのプロジェクトとして日曜日に蚤の市を始めた。100店舗程度の露店が並んでいたが、区役所との問題により、2005年9月に閉鎖されてしまった。その後再開したが、露店は15店舗程度に減ってしまった。</p>		
担当: 森戸清美		

エリア図



アンティークの小物を中心に商品が並ぶ。



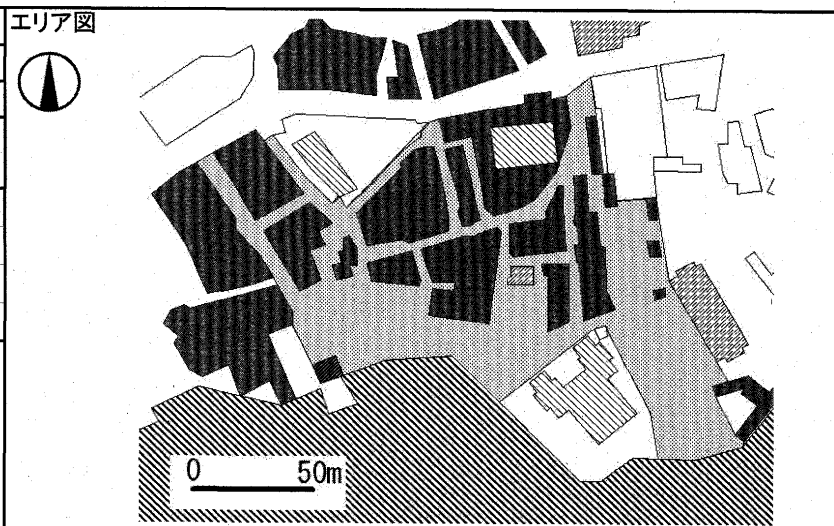
通りの北側から見た様子。現在は店もまばらで閑散としている。



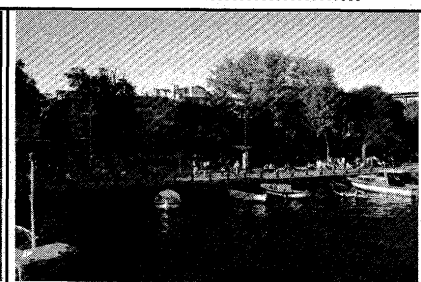
code-no.	TUR-06-29
都市・地区	Istanbul_Beşiktaş
調査日	2006年9月3日(日)
調査対象 エリア	オルタキョイ港前の歩行者エ リア
構成要素	空間 広場、通り
	施設 商業、宗教、公共、交通
	装置 露店、カフェ、泉
	環境 緑地、海

概要: オルタキョイは第一ボスポラス大橋  
ヨーロッパ側の袂に位置する。ビザンチン時  
代には漁村として存在しており、17世紀に  
は、内陸部にトルコ人、沿岸部にギリシア人  
とアルメニア人、ユダヤ人が共存する町で  
あった。そのため、現在も各宗教の施設が  
残っている。周辺には19世紀の建造物も多  
く、20世紀末に海に面する広場と隣接するこ  
れらの街区が再整備され、カフェやバー、ア  
ンティークショップが建ち並ぶエリアとなっ  
た。広場や街路は歩行者専用空間となってい  
る。  
土曜日と日曜日には街路に約180店舗の露  
店が並ぶクラフト市が開催される。週末に限  
らず多くの人々が訪れ、ボスポラス海峡航路の  
定期船や観光遊覧船が立ち寄るスポットに  
もなっている。

担当: 鶴田佳子



週末のクラフト市は、手作りのアクセサリ  
やガラス細工などが並ぶ。

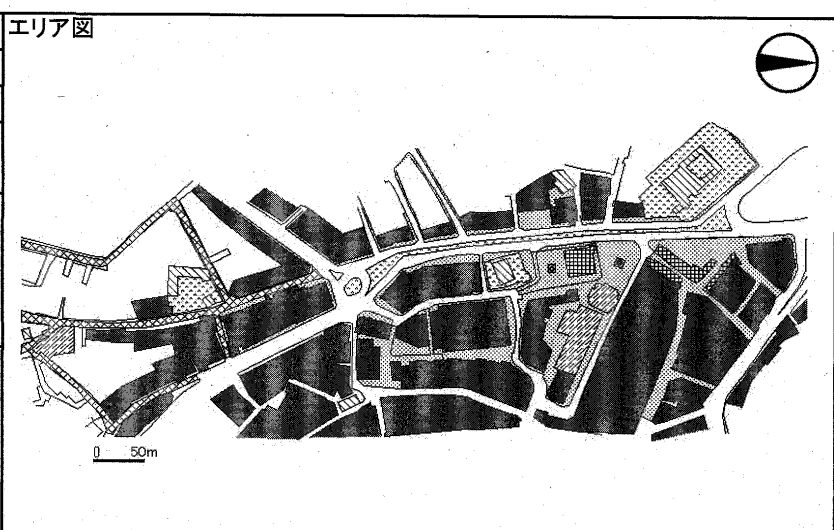


海側(船上)からみた広場。定期船の船着場  
の他、小舟も停泊している。

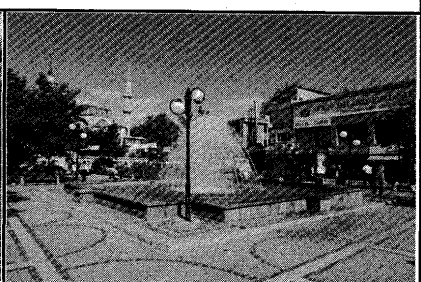
code-no.	TUR-06-30
都市・地区	Istanbul_Üsküdar
調査日	2006年9月8日(金)
調査対象 エリア	ウスキュダル中心部のチャル シュエリア
構成要素	空間 広場、通り
	施設 商業、宗教、公共、交通
	装置 露店、カフェ、像、泉
	環境 緑地

概要: ウスキュダル区はヨーロッパ側の街、  
及びマルマラ海に浮かぶ島々へ発着する大  
きな港があり、イスタンブル市のアジア側  
では歴史を有する区である。中心部は港前  
の広場から南へ伸びる大通りを中心に、複  
数のモスクと大通りの両側に広がる商店街  
と整備された歩行者空間によって形成され  
ている。さらに南側には土曜市の開催場所  
がある。以前は金曜日であったが、周辺の  
商店街からの申請により、土曜日に変更  
された。土曜市の開催場所は、商店街と  
住宅街に広がり、区内最大の定期市とな  
っている。

担当: 鶴田佳子



常設の魚市場には、魚屋の他、八百屋も店  
を開いている

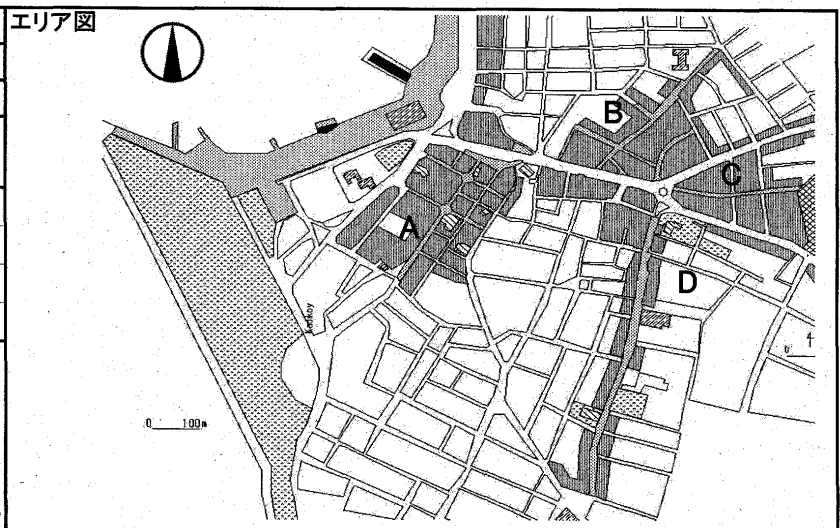


区役所前広場。写真中央奥に魚市場、左は  
ヴァリデ・スルタン・モスク。

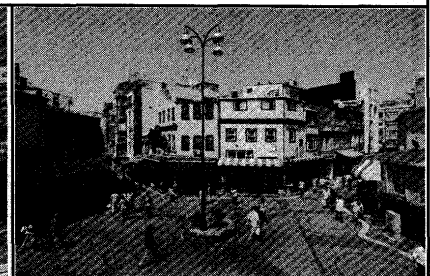
code-no.	TUR-06-31
都市・地区	Istanbul_Kadıköy
調査日	2006年8月22日(火)
調査対象エリア	カドゥキョイ中心部の歩行者エリア
構成要素	空間 広場、通り
	施設 商業、宗教、公共、交通
	装置 階段、露店、カフェ、像、泉
	環境 緑地、海

概要:カドゥキョイ区はイスタンブルのアジア側、ウスキュダル区と共に人口密度の高い区となっている。本事例はカドゥキョイ区の中心部の歩行者空間である。海に面して、広々とした港前広場がひろがる。調査時、広場には仮設ブースが並び黒海沿岸地方の物産展を行っていた。メインストリートは、この広場から斜面を上っていく形で東へと伸びている。メインストリートは車道の幅も広い幹線となっており、その両サイドの歩道から中へと南(A)と北(B)へ、さらに東側のメインストリートの分岐となる交差点から東(C)と南(D)へ歩行者空間が続く。Dは路面電車が中央を走り、賑やかなショッピングストリートとなっている。Aエリアには商店街が連なり、港モスク、オスマン・アーモスク、教会といった宗教施設も点在する。

担当: 鶴田佳子



路面電車と歩行者空間。路面電車の線路脇に街路樹が並ぶ。

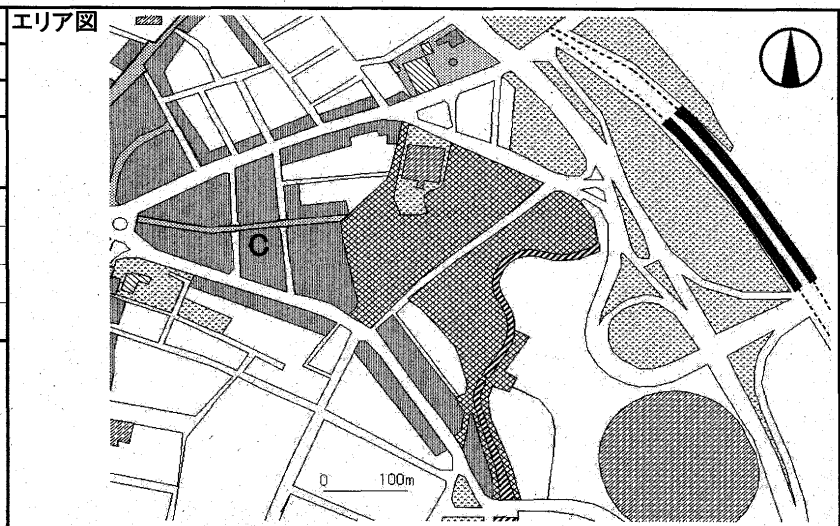


教会前の広場。広場周辺の格子状に広がる街路には、小規模店舗が連なる。

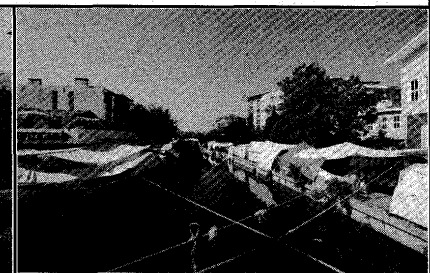
code-no.	TUR-06-32
都市・地区	Istanbul_Kadıköy
調査日	2006年8月22日(火)
調査対象エリア	カドゥキョイ火曜日開催エリア
構成要素	空間 広場、通り
	施設 商業、宗教、公共、交通
	装置 橋、露店、カフェ
	環境 緑地、川

概要:火曜日は露店数1588と規模が大きく、広場と川沿いの広範囲に渡って露店が並ぶ。金曜日は露天数465に規模を縮小しての開催となる。火曜日と金曜日以外、巨大な広場は駐車場として使用されている。露店は、衣類、食料品、日用雑貨、布類がほぼエリアを分けながら、店開きしている。火曜市のエリアは、以前は現在のエリアに加え西側の通り(C)にも露店が並び、混雑していたが、買い物客の通行を優先し、この通りでは露店を禁止し、歩行者専用街路として整備がなされた。この通りに並んでいた露店は、全て通りに面する衣料店等の張り出しのテントであったため、露店がなくなった調査時では店の中から大声を上げて呼び込みを行い、客引きをしていた。今後、この露天市を廃止し、常設の市場施設を建設する提案がなされている。

担当: 鶴田佳子



広場の衣類エリア。子供服から下着まで幅広く商品が並ぶ。



川沿いに並ぶ露店。川の対岸の柵を利用して、テントを支えている。

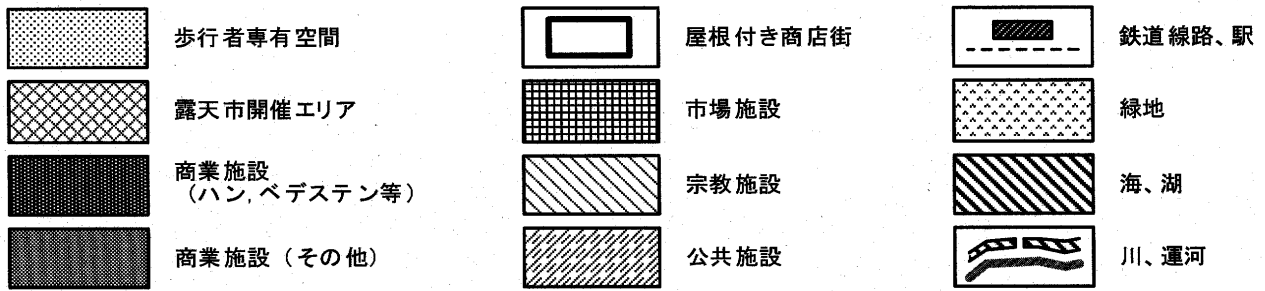



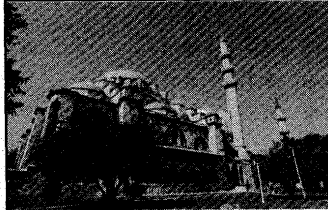


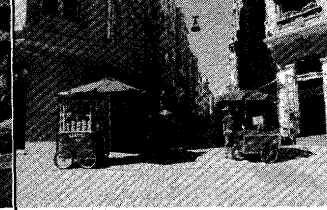


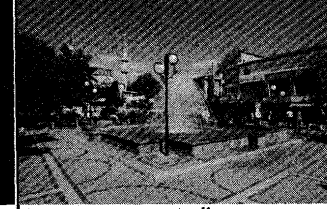




図3. エリア図凡例

表1. 調査エリア及び要素一覧

code-no.	都市・地区名	調査対象エリア	空間		施設						装置				環境			
			広場	通り	商業	市場	宗教	公共	交通	階段・橋	露店	カフェ	像	泉・水場・井戸	緑地	並木	海・湖	川・運河
TUR-06-01	Safranbolu	木曜市開催エリア	●	●		●						●			●	●		
TUR-06-02	Safranbolu	旧市街のチャルシュエリア	●	●	●		●	●	●			●	●		●			●
TUR-06-03	Kayseri	旧市街のチャルシュエリア	●	●	●		●	●	●			●	●		●			
TUR-06-04	Uçhisar	中心部の火曜市開催エリア	●	●	●		●	●				●	●					
TUR-06-05	Nevşehir	中心部のチャルシュエリア		●	●		●	●	●					●	●			
TUR-06-06	Konya	中心部のチャルシュエリア	●	●	●		●	●	●			●	●		●			
TUR-06-07	Tire	チャルシュと火曜市の開催エリア	●	●	●		●	●	●			●	●		●	●		
TUR-06-08	Selçuk	中心部の歩行者エリア	●	●	●		●	●	●			●	●		●			
TUR-06-09	Izmir	旧市街のチャルシュエリア	●	●	●		●	●				●	●		●			
TUR-06-10	Izmir	海岸沿いの歩行者エリア	●	●	●		●	●	●			●	●		●	●	●	
TUR-06-11	Bergama	旧市街のチャルシュエリア	●	●	●	●	●	●				●	●		●			
TUR-06-12	Balikesir	旧市街のチャルシュエリアと火曜市開催エリア	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		●				●
TUR-06-13	Bursa	中心部のチャルシュエリア	●	●	●		●	●	●	●	●	●		●	●			
TUR-06-14	Bursa	金曜市開催エリア	●	●	●	●	●	●	●			●		●				●
TUR-06-15	Istanbul_Fatih	ファーティヒ水曜市開催エリア		●	●		●					●		●	●			
TUR-06-16	Istanbul_Eminönü	クムカプ魚レストラン街	●	●	●		●	●	●			●	●					
TUR-06-17	Istanbul_Eminönü	シュレイマニエ・キュリイェ周辺の歩行者エリア	●	●	●		●	●				●	●		●	●		
TUR-06-18	Istanbul_Eminönü	グラント・バザール周辺	●	●	●		●	●	●			●	●		●	●		
TUR-06-19	Istanbul_Eminönü	エミノニュ間屋街		●	●		●	●				●	●		●	●		
TUR-06-20	Istanbul_Eminönü	エジプト市場周辺	●	●	●		●			●	●	●		●	●			●
TUR-06-21	Istanbul_Eminönü	エミノニュ港前広場	●	●	●		●		●	●	●							●
TUR-06-22	Istanbul_Eminönü	ガラタ橋		●	●				●	●	●							●
TUR-06-23	Istanbul_Beyoğlu	カラキョイ港前の歩行者エリア	●	●	●	●	●		●	●	●				●			●
TUR-06-24	Istanbul_Beyoğlu	カスタモヌ市開催エリア		●							●							
TUR-06-25	Istanbul_Beyoğlu	イェニ・シェヒール日曜市開催エリア		●	●		●	●				●						
TUR-06-26	Istanbul_Beyoğlu	イスティクラル通り	●	●	●		●	●	●			●	●		●			
TUR-06-27	Istanbul_Beyoğlu	フランス通り	●	●	●					●		●	●		●			
TUR-06-28	Istanbul_Beyoğlu	チュクルジュマ 蚤の市開催エリア		●	●		●					●			●			
TUR-06-29	Istanbul_Beşiktaş	オルタキョイ港前の歩行者エリア	●	●	●		●	●	●			●	●		●	●		●
TUR-06-30	Istanbul_Üsküdar	ウスキュダル中心部のチャルシュエリア	●	●	●		●	●	●			●	●		●	●		
TUR-06-31	Istanbul_Kadıköy	カドゥキョイ中心部の歩行者エリア	●	●	●		●	●	●	●	●	●		●	●			●
TUR-06-32	Istanbul_Kadıköy	カドゥキョイ火曜市開催エリア	●	●	●		●	●	●	●	●			●	●			●

表 2. 構成要素写真一覧

空間			
			
a. 広場 (Istanbul_Eminönü)	a. 広場 (Konya)	b. 通り (Istanbul_Beyoğlu)	b. 通り (Selçuk)
施設			
			
c. 商業施設 (Istanbul_Eminönü)	c. 商業施設 (Bursa)	d. 市場施設 (Bergama)	d. 市場施設 (Bursa)
			
e. 宗教施設 (Istanbul_Eminönü)	f. 公共施設 (Izmir)	g. 交通施設 (Istanbul_Eminönü)	g. 交通施設 (Istanbul_Kadıköy)
装置			
			
h. 階段 (Istanbul_Beyoğlu)	h. 橋 (Istanbul_Eminönü)	i. 露店 (Tire)	i. 露店 (Istanbul_Beyoğlu)
			
j. カフェ (Istanbul_Beyoğlu)	k. 像 (Istanbul_Beyoğlu)	l. 泉 (Istanbul_Eminönü)	l. 噴水 (Istanbul_Üsküdar)
環境			
			
m. 緑地 (Istanbul_Fatih)	n. 並木 (Izmir)	o. 海 (Istanbul_Besiktas)	p. 川 (Istanbul_Kadıköy)

## 4. 歩行者空間の構成分析

### 1) 構成要素

調査を実施した32事例について収集情報を集約した図面データを中心に空間構成を分析すると、16の構成要素に整理でき、さらに16構成要素は大きく4カテゴリーに分類できる。16構成要素の有無について事例別の一覧にしたものが表1である。事例がそれぞれ要素を有する場合、表中では●印をつけている。また、16要素の写真一覧を表2に示す。4カテゴリーは空間の形態や機能及び空間に与える影響から、空間、施設、装置、環境と名付け、対象エリア内のすべての要素が該当するように定義づける。カテゴリーの概念は図4.カテゴリーモデル図及び以下の各項目において説明する。

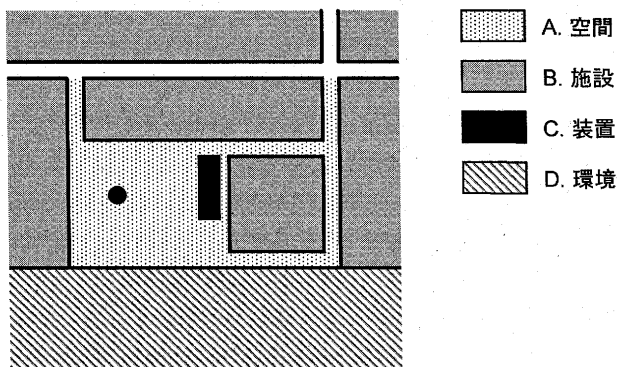


図4. カテゴリーモデル図

#### A. 空間

対象エリアを平面図化した中で建物以外の空いている部分を空間カテゴリーとする。該当する要素として面的な広がりをもつ広場と線状の通りの2つが挙げられる。

##### ①広場

面的な広がりをもつ空間要素である。露天市の開催会場となるものや市庁舎やモスクなどの施設に付属し、前庭的役割を果たすもの、港前に広くとられた水辺空間などがある。

##### ②通り

線状の形態をとる空間要素である。トルコでは通りの複合体が歩行者空間を形成している都市が多数みられた。多様な機能を有し、メインとなる通りと施設間をつなぐのみのサブ的な通りがある。行政の整備によって歩行者専用空間となっている街路も多い。広場同様、露天市の開催会場となるものもある。

#### B. 施設

空間に面する建物を施設カテゴリーとする。主たる機能

別に商業施設、市場施設、宗教施設、公共施設、交通施設の5つに要素を分ける。

### ③商業施設

トルコの都市にはチャルシュと呼ばれる商店街があり、都市の中心的な役割を担っている。商店街の店舗は勿論、住宅街の日用品店に至るまで、商業施設は生活する上で欠かせない要素であり、また、地元市民だけでなくイスタンブルのグランド・バザールのように国内外からの客を呼ぶ要素でもある。歩行者空間を形成するにあたり、商業施設の担う役割は大きい。ハン、ベデステンなどの歴史的なもののから、近代的な大型複合ショッピングセンターまで、形態、規模は様々である。今回はデータカード内のエリア図でハンなどの歴史的な施設のみ、その他の商業施設と凡例を変えて区別した。歴史的な施設の内部には小さな店舗群が並び、街路や中庭などの歩行者空間が内包され、施設外部の街路についても歴史的施設が現存するエリアでは、車社会以前の街路形態が維持され、幅の狭い街路となっており、歩行者空間が多く見られる。このため、歴史的な商業施設をその他の商業施設とは区別している。

### ④市場施設

市場施設は一般的に分類するならば商業施設に含まれるが、本論では常設の市場施設を商業施設要素、露天市の際に使用するための商品陳列台が並ぶものを市場施設要素とする。露天市の開催日以外は陳列台が並ぶだけで、商品等全て片付けられる半常設の施設である。このため商業施設から独立させてひとつの要素とする。屋根と柱のみの半屋外や広場に陳列台だけが並ぶ形態をとる。通常、多くの露天市は日差しを避けるためのテントと商品を並べる簡易な台で構成され、いずれも露天市開催日のみに設置される仮設物であり、開催日以外はすべて撤去されるため、この市場施設には該当しない。今回は部分的に施設化しているものも含め、5事例が該当している。

### ⑤宗教施設

トルコは国民の多くがイスラーム教徒であり、イスラーム教が生活に深く関わっているため、モスクを町の至る所で目にする。周囲には緑地や泉が配置され、礼拝に来た人々のコミュニケーションの場として利用されることもある。また、モスクを中心に神学校、病院、ハمام、ハンなどが集まったキュリエは、一体が歩行者空間となっている場合が多い。教会等のイスラーム教以外の宗教施設もある。

### ⑥公共施設

役所、郵便局、図書館、博物館、学校等が該当する。これらは日常生活で利用されるため、都市の中心部に位置する場合が多い。



## ⑦交通施設

駅、船着場、ロータリー、駐車場等が該当する。歩行者空間は基本的に車両の進入が規制されているため、周囲に交通施設を配置している場合が多い。船着場周辺のように、交通施設を利用する人のために施設周辺に歩行者空間が形成されている場合もある。また、イスタンブルのカドゥキョイ (TUR-06-31) のように公共交通である路面電車のみ通行を許可し、歩行者と共存している事例もある。

## C. 装置

空間内に存在し、歩行者の行為を誘引する要素を装置カテゴリーとする。該当する要素は階段・橋、露店、カフェ、像、泉・水場・井戸の5つである。

### ⑧階段・橋

階段、橋ともに空間としては通り要素となるが、階段の場合は段差という物理的に車両の通行を阻止する装置であると捉え、橋の場合も単に空間と空間をつなぐだけでなく、別の空間の上を立体的に交差する装置としてみる。階段は物理的に車両の通行ができないため歩行者専用空間となるだけでなく、階段の段差に人々が腰掛け、憩いの場としての機能をもつ場合やイスタンブルのフランス通り (TUR-06-27) のように階段に面してカフェやレストランが並び、段差を利用しながらオープンカフェのテーブルを配置している事例もある。橋は川や海、あるいは大通りによって分断された空間を繋ぐ役割を担う。全体、または部分的に歩行者空間が確保され、海や川など別の空間の上を通るといった高い位置にあるため、眺望を楽しむことも可能である。イスタンブルのガラタ橋 (TUR-06-22) のように橋上にレストランが並び、欄干では釣りを楽しむ人たちで賑わう事例もある。

### ⑨露店

前述のチャルシュに加え、仮設の商業空間である露天市も日常生活に必要な商品を提供する場となっている。露天市以外において、露天商が個別に店を出しているケースもある。しかし近年、大型スーパーマーケットの出現や、騒音、衛生面での近隣住民とのトラブル等の様々な問題から、露天市、露天商の営業が役所によって禁止されるエリアが増えつつある。露天市が開催される場合は、通常、車両の進入が可能な場合も、所狭しと露店が並ぶと歩行者専用空間が確保されるため、着目している要素である。

### ⑩カフェ

広場や街路に張り出しているオープンカフェでは人々が一定時間滞在し、憩いの場、情報交換の場として機能している。店によって異なる椅子やテーブルを並べ、個性ある空間を形成し、歩行者空間の活性化に一役買っている。イ

スタンブルのイスティクル通り (TUR-06-26) の場合、通りから横に延びるほとんどの街路にオープンカフェが並んでいる。トルコではチャイと呼ばれる紅茶を1日に何杯も飲む習慣があり、チャイハネと呼ばれる喫茶店は地域のコミュニケーションの場となっている。このチャイハネもカフェ要素となる。

### ⑪像

その空間のシンボリック的存在、待ち合わせの場といった機能をもつ。街路よりも広場、あるいは施設に関連して中庭に位置する。

### ⑫泉・水場・井戸

モスクに付属した泉は身を清めるために利用されると同時にコミュニケーションの場としても機能している。市場にも水場は多く配置され、掃除や野菜等の商品を洗う際に利用される。また、装飾の施された泉や噴水は空間に彩りを与え、憩いの空間形成にも役立っている。

## D. 環境

空間に隣接あるいは内部に配置され、自然環境と関わる要素を環境カテゴリーとする。該当する要素は緑地、並木、海・湖、川・運河の4つである。この要素に実際には人が立ち入れない場合も多いが、周囲の景観を良くし、人を集める要因ともなる。

### ⑬緑地

公園、芝生、植栽などが該当する。中に入ることができ、憩いの場、子どもの遊び場として機能しているもの、中には入れず、外から景観を楽しむものがある。

### ⑭並木

連続的に樹木を植えることで、統一感のある景観を作る。木陰をもたらす、憩いの場としても機能する。また、季節や時の流れによっても形態が変わり、空間に変化を与える。

### ⑮海・湖

海や湖に面する水辺空間がもたらす効果として、開けた眺望やヨット、釣りといったレクリエーションなど多様な楽しみが挙げられる。水上交通の拠点である港が中心となり、港前に広場を設け、植栽や敷石、ベンチなどがしつらえられている事例も多い。

### ⑯川・運河

前述の海・湖は歩行者空間に対して面的に広がる要素であったが、川と運河は線状に隣接、あるいは歩行者空間内部に入り込む形で水辺空間を形成する。

## 2) 空間特性

32事例の調査データをもとに空間構成を4つのカテゴリー、16要素に分けて内容をみてきたが、次に事例毎の



空間特性を整理する。事例毎に16要素の有無を確認すると、空間はいずれも複数の通りや広場が連結してエリアを形成しているため、1事例内に含まれる要素の数は多い。施設カテゴリーでは30事例に商業施設が、次いで28事例に宗教施設が含まれている。トルコでは都市の中心部にチャルシュが位置することが多く、住宅街においても軒数は少なくなるものの日用品店などの店舗が点在するために商業施設要素が含まれることとなる。また、宗教施設はモスクがほとんどであるが、モスクも商業施設同様、チャルシュに限らず住宅街にも分布する施設であるため、多く含まれている。装置カテゴリーに関しては露店とカフェが多い。露店は露天市を対象に10事例調査していることもあるが、露天市とは関わりなく、路上に単独で店を出す、あるいは移動しながら販売する露天商もいる。カフェは調査時期が気候の良い夏季であったこともあり、路上にテーブルや椅子を張り出して営業しているため、数の多い結果となっている。

歩行者空間の調査対象エリアとして、事前準備の段階でチャルシュエリア、露天市の開催場所、歩行者天国が該当するものと想定した。実際に都市を訪れ調査対象エリアを探すと、上記の3タイプが基本的に大きな面積を占めていた。チャルシュエリアを歩行者空間として捉えた際、街路と街路に面する商業施設が基本構成となるが、商業施設にも種類があり、規模の大きな施設の場合、施設内に屋根付きの街路や屋外の中庭が複数存在し、それらも歩行者空間となる。また、宗教施設の中庭も歩行者空間として点在している。モスクを中心に構成されるキュリエはハムや神学校など複数の施設群で構成され、施設をつなぐ広場や街路は歩行者空間となっている場合が多い。これら施設の維持・運営の収入源として商業施設が建設されてきており、チャルシュの一角、あるいは隣接する形でキュリエが位置する。チャルシュ内は人の通行だけでなく、同時に商品の搬入・搬出等流通機能も重要であるため、車両の動線も確保されている。チャルシュ内は幅の狭い街路も多く、車両の入れない部分は人力で商品の運搬を行い、車両の通行可能な街路では人と車の共存がなされている。

露天市と歩行者天国は行政機関によって車両の規制が計画的になされているエリアである。露天市の場合、チャルシュに隣接する場合や住宅街で開催する場合など立地は様々であるが、週に1、2度、車両を排除し、路上にテントをはり、店開きすることで、臨時的商業空間が形成される。ティレ(TUR-06-07)のような規模の大きな露天市の場合、町の中心部はほぼ全域から車両が排除され、街路も広場も歩行者専用空間となる。歩行者天国の場合、曜日を問わず、常に車両の進入を制限している。但し、チャル

シュ同様、商品の搬入等の必要性から、朝10時までというように時間を限り車両の進入を認めている事例が多い。イスタンブル(TUR-06-21, 23, 29, 31)やイズミール(TUR-06-10)のように海に面する都市の場合には、港周辺の水辺空間で車両の侵入が規制され、広々とした歩行者空間が確保され、目前に広がる海を楽しみながら滞在することができる。内陸部ではカイセリ(TUR-06-03)のようにチャルシュ内の街路を規制する事例やセルチュク(TUR-06-08)のように鉄道駅とバスターミナルを結ぶ町の中心部を規制する事例などがある。イスタンブルのような大都市の場合、様々な歩行者空間の形態が見られる。前述の水辺空間だけでなく、内陸部においても高台に位置する新市街の中心部、イスティクル通り(TUR-06-26)とそこから延びる多数の路地を併せて整備した事例や階段空間を活用したフランス通り(TUR-06-27)等がある。

歩行者専用空間の形態についてみると、チャルシュの場合は所々車両の通行可能な通りが横断するために車道によって分断されながら複数の歩行者空間の集合体となっている。露天市の場合歩行者専用空間が連続し、街路から街路へ連続して歩くことが可能であり、歩行者天国の場合は平面的に単純な形態をとっているため、一体感のある構成となっている。さらに都市の規模によっても車両規制の度合いが異なっていることが窺える。都市の規模が大きくなるほど、行政側の規制、整備のエリアが大きくなり、小都市の方が小さい。これは大都市になると車の量も多く、小都市は規制をしなくても通常から交通量が少ないために歩行者にとっても車による影響が少ないと考えられるからである。

## 5. まとめ

本研究で対象とする歩行者空間とは、前述の通り、人のための空間として機能するもので、場合によっては車両の進入もあり得る。ある程度、歩行者のために空間が守られており、かつ単なる通行のための空間ではなく、多様な機能を有し、多くの人が利用する、言い換えれば、多くの人を集める要素を有する空間である。今回の調査において、空間を構成する要素を抽出し、かつ空間全体の性質としてはチャルシュ、露天市、歩行者天国という大きく3つのタイプがあることが確認できた。要素としては、商業施設や露店、カフェといった商業機能に絡む要素と宗教施設が歩行者空間にとって欠かせないものであり、トルコの重要な特徴であると認識した。今後、さらに他の地域あるいは規模の異なる都市の事例を増やし、トルコの歩行者空間の特性及び地域性の分析を進めていく予定である。

## 註

1. 本論文での歩行者空間は車両規制を行っている歩行者専有空間だけでなく、車両進入可能なエリアであっても人のためのスペースが確保され、通行以外の機能を有する空間を対象とする。
2. チャルシュ（トルコ語 çarşı）は商業施設が建ち並ぶ市場空間をさす。バザールに該当する言葉で、一街路のみの商店街から面的な広がりを見せるものまで都市によって規模や形態は異なる。

## 参考文献

01. Türkiye Tarihi Yerler Kılavuzu, M. Orhan Bayrak, İnkılâp Kitabevi Yayın, 1994
02. Çarşılar...Pazarlar..., Şakir Eczacıbaşı, Eczacıbaşı Holding A. Ş., 2005
03. Türk Kenti, Kemal Ahmet Arı, Yapı-Endüstri Merkezi Yayınları, 1998
04. Tüba Kültür Envanteri Dergisi, Füsün Arman 他, Türkiye Bilimler Akademisi, 2005
05. Typical Commercial Buildings of the Ottoman Classical Period and the Ottoman Construction System, Mustafa Cezar, Türkiye İş Bankası Cultural Publications, 1983
06. Mimarlık ve Yapı Sözlüğü, Doğan Hasol, Yapı-Endüstri Merkezi Yayınları, 2003
07. Architectural Guide to Istanbul, Afife Batur 編, Chamber of Architects of Turkey İstanbul Metropolitan Branch, 2006
08. Bildlexikon zur Topographie Istanbul, Wolfgang Müller-Wiener, Verlag Ernst Wasmuth Tübingen, 1977
09. İstanbul Gezi rehberi, Murat Belge, Tarih Vakfı Yurt Yayınları, 2004
10. Tarihsel Gelişim Sürecinde Beyoğlu, Vedia Dökmeci, Türkiye Turing ve Otomobil Kurumu Yayınları, 1990
11. A Guide to the Works of Sinan the Architect in Istanbul, Reha Günay, Yapı-Endüstri Merkezi Yayınları, 2006
12. Eski İstanbul'un (Yaşayan) Tadı, Jak Deleon, Remzi Kitabevi, 2002
13. The Bosphorus, John Freely, Redhouse Press, 1993
14. Rehber Safranbolu, Gökhan Gönenç, Kibele Ltd. Şti., 1994
15. Dünyü ve Bugünü ile Safranbolu, Ünsal Tunçözgür, 1999
16. Safranbolu Yörük Köyü Geleneksel Yaşam Biçimi ve Evleri, Can Mehmet Hersek 他, Yörük Köyü Kültür Mirasını Koruma ve Dayanışma Vakfı, 2000
17. Tradition of the Turkish House and Safranbolu Houses, Reha Günay, Yapı-Endüstri Merkezi Yayınları, 1998
18. Nevşehir Damat İbrahim Paşa Külliyesi, İknur Aktuğ, Kültür Bakanlığı Yayınları, 1993
19. Konya Tarihi Kentin Planlama Sorunları, Ahmet Alkan, 1994
20. İzmir Hanları, Bozkurt Ersoy, Türk Tarih Kurumu Basımevi, 1991
21. İzmir, Gündüz Mutluay 他, Yayımlayan, 2004
22. Osmanlı'dan Cumhuriyet'e İzmir Planları, Çınar Atay, Yaşar Eğitim ve Kültür Vakfı, 1998
23. İzmir'in Osmanlı Eserleri-1 Hazireler, Metin Atsal 他, İzmir İl Kültür ve Turizm Müdürlüğü Kültür Yayınıdır, 2005
24. Kapanan Kapılar İzmir Hanları, Çınar Atay, İzmir Büyükşehir Belediyesi Kültür Yayını, 2003
25. Bursa Turist Rehberi, Nurettin Menekşe, Kültür Ofset Ltd., 2005
26. Bursa Anıtlar Ansiklopedisi, Raif Kaplanoğlu, Yenigün Yayınları, 1994
27. City Health Profile and Healthy City Indicators, David J. Breuer 他, Metropolitan Municipality of Bursa, 2005
28. Our Vision and Plans For a Healthy Bursa, A. Nalan Fidan 他, Metropolitan Municipality of Bursa, 2005
29. From Prusa to Bursa Urbanizing on the Road to European Accession, Raif Kaplanoğlu 他, Metropolitan Municipality of Bursa, 2006
30. Turistik Bursa Sözlüğü Gümüşlü Günlük, Ramis Dara, Kare Yayınları
31. トルコ・イスラーム都市の空間文化, 浅見泰司編, 山川出版社, 2003
32. トルコ 2005, トルコ通信社, 2005
33. ロンリープラネットの自由旅行ガイド トルコ, メディアファクトリー, 2004
34. 世界歴史の旅 トルコ, 大村幸弘, 山川出版社, 2000
35. 図説 イスタンブル歴史散歩, 鈴木董, 河出書房新社, 1993
36. 地球の歩き方 E 03 イスタンブルとトルコの大地, 地球の歩き方編集室, ダイアモンド・ビッグ社, 2006
37. 望遠郷 2 イスタンブル, 同朋舎出版, 1994
38. 世界遺産サフランボル 民家とくらし, ジョシュクン安達智英子, 芳文社, 2004
39. サフランボルの民家, レハー・ギュナイ, Yapı-Endüstri Merkezi Yayınları, 2005
40. 「トルコにおける都市の商業空間」昭和女子大学国際文化研究所紀要 Vol. 2, pp. 79-86, 1996

41. 「都市広場における空間構成の一考察」昭和女子大学大学院生活機構研究科紀要 Vol. 9, pp. 67-75, 2000
42. 「トルコにおける商業地域の空間的特質—他のイスラーム地域の都市との比較から—」都市計画論文集 No. 37, pp. 901-906, 2002
43. 「イスタンブール及びバルケシルにおける市場の空間形態について—2005年トルコ市場空間調査報告—」, 鶴田佳子, 昭和女子大学学苑第784号人間社会学部紀要, pp. 114-124, 2006
44. イスタンブール市役所公式サイト  
<http://www.ibb.gov.tr/tr-TR/AnaSayfa,2005/11/22>

#### 謝辞

トルコ各地において調査に協力をしてくださった各行政機関及び現地の方々に感謝いたします。

(つるた よしこ 現代教養学科)

(たかぎ あきこ 生活環境学科)